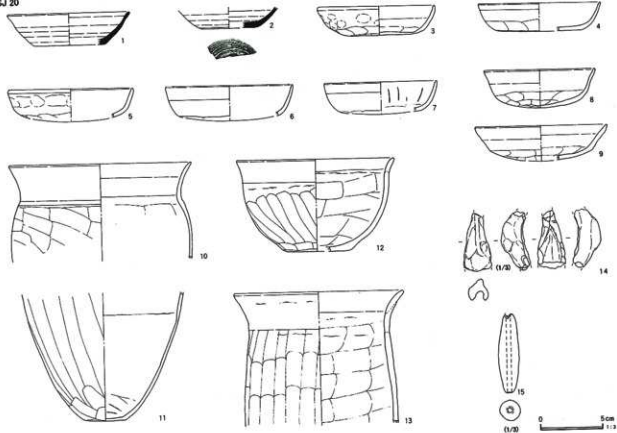


SJ 20



SJ 34



SJ 35



第37図 第20・34・35号住居跡出土遺物

第19表 第34号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
16	須恵器 坏	(13.0)	(2.0)	—	EHJ	良好	灰	20	カマド

第20表 第35号住居跡出土遺物観察表

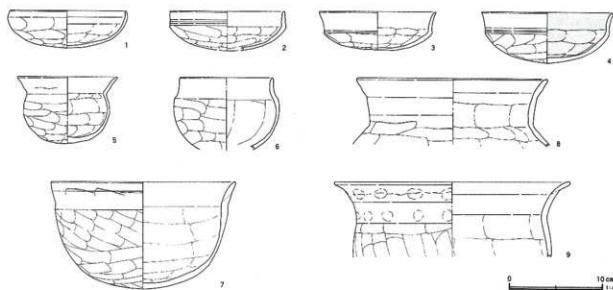
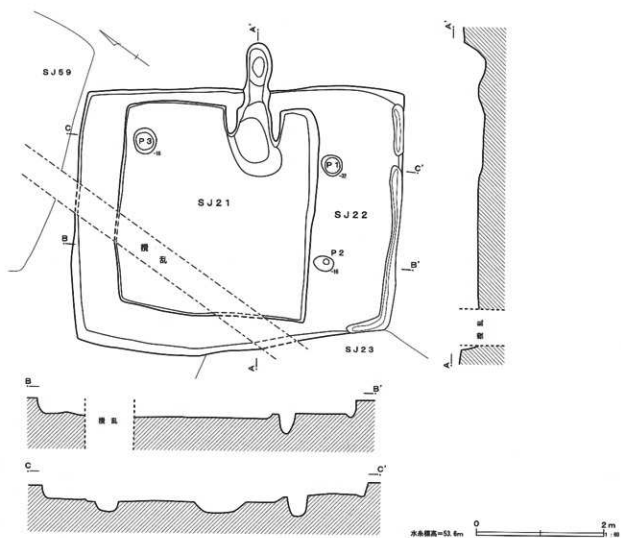
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
17	土師器 坏	(11.8)	(2.9)	—	AEH	不良	糠	15	カマド

遺物は第34・35号住居跡とかなり混じっているが土師器の坏・甕、須恵器の坏、土錘が出土している。8・9・12・13が本住居跡の遺物と考えられる。時期は6世紀後半と考えられる。

第21号住居跡 (第38図)

調査区の西側、X-43、Y-43グリッドに位置する。北側にはほとんど接するように第59号住居跡が

あり、西側には第20号住居跡がある。本住居跡と直接重複するのは第22・23号住居跡で、第22号住居跡とは入れ子状になっている。確認段階では第22号住居跡しか認識できなかったが掘り下げたところ本住居跡が入れ子になっているのが判明した。新旧関係は、カマドの袖が壊されていないことから本住居跡が新しいと判断した。また、第23号住居跡は、出土遺物から見て本住居跡より新しい。



第38图 第21·22号住居跡・出土遺物

第21表 第21・22号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	12.3	4.9	-	ABCDE	普通	橙	90	SJ21No.4 やや歪みあり
2	土師器 坏	(12.0)	(4.1)	-	BCG	普通	にぶい濁	30	SJ21・22
3	土師器 坏	12.3	4.0	-	ABCE	普通	橙	100	SJ22No.6 (P2) 口縁楕円形
4	土師器 坏	(13.8)	5.8	-	BCDE	普通	橙	50	SJ22No.4 内面黒色処理
5	土師器 小型壺	(10.6)	7.0	-	ABCDEG	普通	にぶい赤褐	40	SJ22No.5
6	土師器 小型鉢	(9.7)	(7.8)	-	ABCE	不良	橙	20	SJ21・22
7	土師器 鉢	19.6	11.3	-	ABCDEG	普通	橙	95	SJ21No.1 (カマド), SJ21No.2
8	土師器 甕	(20.0)	(7.0)	-	ABCDH	不良	にぶい黄橙	40	SJ22No.2・3, SJ21・22 磨耗
9	土師器 甕	(24.8)	(8.0)	-	ABCD	普通	にぶい黄橙	15	SJ21・22

平面形は方形である。規模は長軸3.36m、短軸3.12m、深さは0.15mで浅い。主軸方向は、N-60°-Eを指す。

床面は平坦で壁溝は検出されなかった。

カマドは東壁の南寄りに造られる。第22号住居跡のカマド部分を再利用して造り直していると思われる。燃烧部は浅い皿状で住居跡内にはば納まり、煙道は壁外に突出している。燃烧部の幅は50cmで長さは1.16m、煙道の長さは0.92m残存していた。袖は白色粘土を用いて構築されており、左袖は長さ45cm、右袖は55cm残存していた。

遺物は土師器の坏・鉢・小形壺・甕が出土している。当初第22号住居跡と混同しているが、1・7が本住居跡に伴うものである。7はカマドから出土している。5・8は混入である。時期を決める遺物に乏しいが7世紀後半としておきたい。

第22号住居跡 (第38図)

調査区の西側、X-43、Y-43グリッドに位置する。第21・23号住居跡と重複関係にある。第59号住居跡が北側に、第20号住居跡が西側にある。第21号住居跡は入れ子になっており本住居跡より新しい。第23号住居跡は出土遺物から本住居跡より新しい。

平面形は長方形である。長軸5.16m、短軸方向が4.20m、深さは0.12mで浅い。主軸方向は、N-57°-Eを指す。

床面は平坦で、壁溝は南壁沿いに見られた。

カマドは東壁の中央に造られていたと考えられる

が、第21号住居跡のカマドが再構築されたため壊されている。ピットは3基が検出された。主柱穴と考えられる。北西の1本は攪乱によって壊されている。

遺物は土師器の坏などが出土している。3はP2から出土した。時期は、ピットから出土した坏で考えるなら6世紀後半である。

第23号住居跡 (第39図)

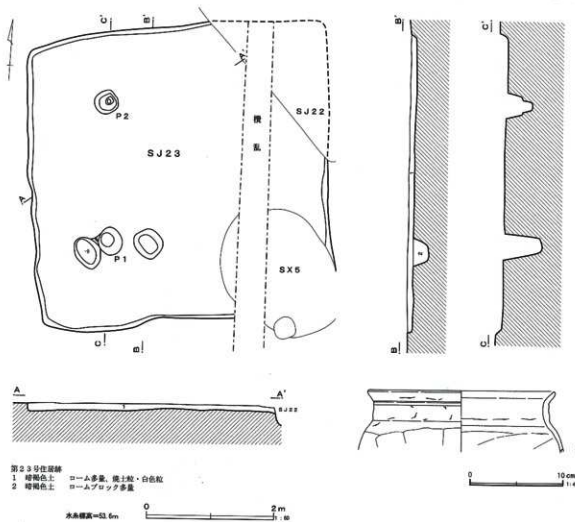
調査区の西側、Y-42・43グリッドに位置し、これより西は流路によって地形が削られている。北側には第20・34・35号住居跡など流路によって流された住居跡がある。南側には第31号住居跡などが近接している。第22号住居跡、第5号竪穴状遺構と重複関係にあり、第5号竪穴状遺構より古く、第22号住居跡より新しい。

平面形は、方形である。規模は長軸4.82m、短軸4.70mである。深さは0.08mとごく浅い。主軸方向は、N-87°-Eを指す。

床面は平坦でさほど締まっていたはなかった。壁溝は検出されなかった。覆土はロームを多量に含んだ暗褐色土1層で埋め戻したものと思われる。

カマドは検出されなかった。柱痕はP1・P2が柱穴と考えられ、P2は柱痕が残っていた。東側の2本は攪乱部分にあったものと思われる。

遺物はわずかで、図示できたのは土師器の甕1点である。時期は土師器の甕だけから言えば9世紀となるが、住居跡の形態は古い時期のものと考えられる。



第39図 第23号住居跡・出土遺物

第22表 第23号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 甕	(20.0)	(6.5)	-	BDEH	普通	にぶい褐	10	やや歪みあり

第24号住居跡 (第40図)

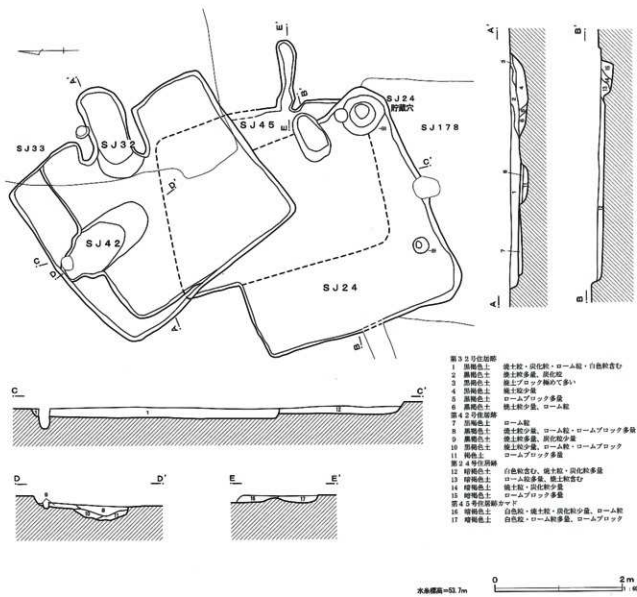
調査区の西側、Z-43グリッドに位置する。第32・42・45・178号住居跡と重複関係にあり、第32・45・178号住居跡より古い。第42号住居跡との新旧関係は不明である。また、これらの住居跡の下には縄文時代前期の第33号住居跡がある。

平面形は方形である。規模は長軸3.62m、短軸は3.3mである。深さは0.22mである。主軸方向は、N-70°-Eを指す。

床面は平坦である。壁溝は確認されなかった。

カマドは東壁の中央やや南寄りに造られていた。壁を若干掘り込んでいる。燃焼部は床面より低く掘り下げられ、長さ78cm、幅は34cm残存していた。煙道部分は第45号住居跡によって壊されている。袖も残っていない。

貯蔵穴はカマドの右側、住居跡の南東隅に掘り込まれていた。70cm×62cmほどの大きさで、深さは50cmである。カマド側の肩の部分から甎が出土してい



第40図 第24・32・42・45号住居跡

る。

遺物はカマド周辺と南壁付近から土師器の坏が出土している。

時期は6世紀後半である。

第25号住居跡 (第42図)

調査区の東側、Y-54グリッドに位置する。第132・133号土壌と重複し、これより古い。

平面形は方形である。規模は長軸2.40m、短軸2.26m、深さ0.03mとごく浅い。主軸方向は、S-0°で南方向のカマドがある。床面は平坦だが、検出した

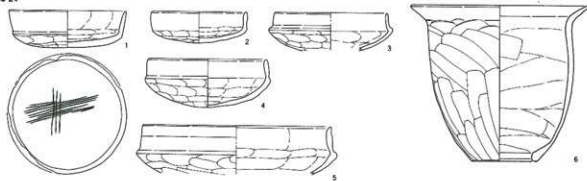
段階でほとんど床面が出ている状況であった。壁溝や柱穴などは検出されなかった。

カマドは南西の角に造られ斜めに張り出していた。火床面は床面より下がっている。燃烧部と煙道の境ははっきりしない。長さは1.28mで、幅は0.36mであった。袖は検出していない。

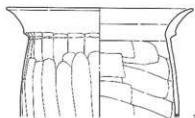
遺物は細片がごく僅か出土したのみである。須恵器の坏、埴輪片、土錘が出土している。

時期を決定できる遺物はないが、住居跡の形態的な特徴から10世紀頃の遺構と考えておきたい。

SJ 24



SJ 32



SJ 45



第41図 第24・32・42・45号住居跡出土遺物

第23表 第24号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	12.5	3.9	—	ABCDE	普通	明赤褐	95	No.6 底部外面に沈線あり
2	土師器 坏	9.8	3.4	—	ABCEH	普通	にぶい褐	95	No.4
3	土師器 坏	(11.8)	(4.0)	—	ABCDE	普通	明褐	25	No.2
4	土師器 坏	12.4	5.0	—	ABCDEG	普通	にぶい赤褐	90	No.1・3・4
5	土師器 坏	(20.0)	(5.2)	—	ABCDE	普通	灰黄褐	15	No.7
6	土師器 瓶	19.0	16.5	7.0	ABDEH	普通	橙	95	貯穴 No.1 内面やや磨耗

第24表 第32号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
7	土師器 甕	19.8	(11.1)	—	ABCE	普通	にぶい黄褐	50	No.1

第25表 第45号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
8	土師器 坏	(12.0)	2.9	—	ABEHJ	不良	橙	10	カマド 磨耗著しい
9	土師器 坏	(12.0)	(2.4)	—	DEHJ	不良	にぶい黄褐	15	カマド 磨耗著しい

第26号住居跡 (第43図)

調査区の西側、Y-44・45グリッドに位置する。他遺構との重複はない。ただし、すぐ西側に軸をほぼ同じくして掘立柱建物になると見られる4基のピットがあり、規模も本住居跡と同様であることから関連性が気にかかるところである。

平面形は方形である。規模は長軸2.62m、短軸2.60m、深さ0.07mである。主軸方向は、N-30°-Wを指す。

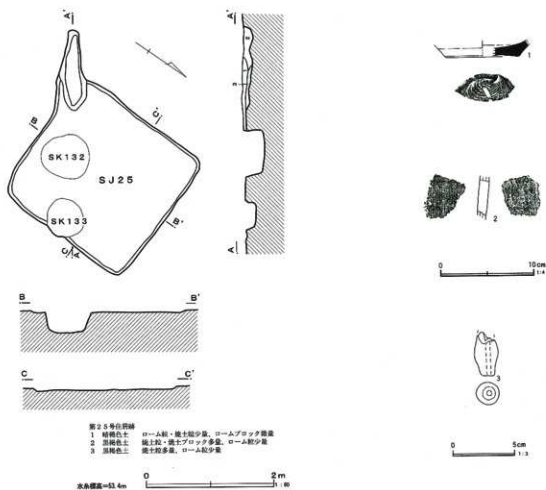
床面は平坦である。壁溝はなかったが、北西角と

南西角に柱穴と思われるピットが検出された。上屋構造はわからないが、西側に接する掘立柱建物跡と思われる遺構との関連を考えたくなる位置にある。

カマドは北壁の中央に造られていた。燃焼部はごく浅く壁内に取まっている。大きさは76cm×40cmほどである。袖は幅広で、長さは右袖が40cm、左袖は16cmほど残っていた。

住居跡中央に長径50cmの楕円形の掘り込みが検出された。中から土師器の甕が出土している。

遺物は土師器坏・甕が出土している。甕はいずれ



第42図 第25号住居跡・出土遺物

第26表 第25号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 碗	—	(1.8)	(8.0)	EH	普通	灰褐	20	Pit 1
2	埴輪	—	—	—	BEHJ	不良	にぶい赤褐	破片	Pit 1
3	土鏡	現存長3.5cm	直径1.8cm	—	AEH	普通	灰黄褐	80	Pit 1 孔径0.4cm 重さ8.6g

もカマドからの出土である。

時期は6世紀後半である。

第27号住居跡 (第44図)

調査区の西側、Z-43・44グリッドに位置する。第41・46・48号住居跡と重複している。本住居跡がいずれの住居跡よりも新しい。

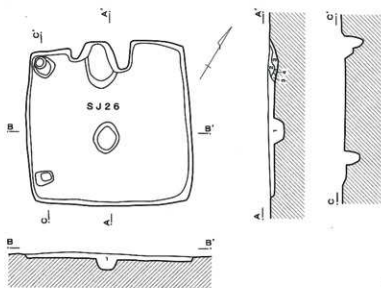
平面形は長方形である。規模は長軸4.20m、短軸3.70mである。深さは0.01mである。主軸方向は、N-63°-Eを指す。

床面は、下にある第41号住居跡が浅くほとんど一

緒に掘ってしまったためよくわからないが、ほぼ平坦でカマドのある東壁方向にやや傾斜している。壁溝は検出されなかった。柱穴と断定できるものも検出されなかった。

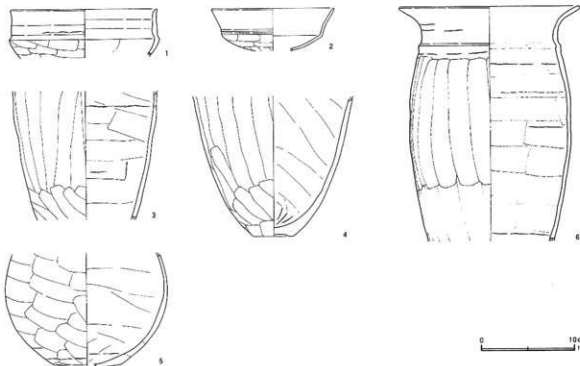
カマドは東壁中央からやや南に寄って造られていた。壁を70cmほど掘り込んでいる。火床面は床面とほぼ同じ高さである。袖はカマドの掘り込みから外側にずれて構築されていた。右袖が24cm、左袖は40cmほどの長さが残っていた。貯蔵穴は検出されなかった。

遺物はカマドから土師器の破片が出土しているが



- 第26号居跡跡
 1 黄褐色土 白色粘土少量 焼土粒・磁化粒・ローム粒
 2 黒褐色土 白色粘土少量 焼土の多量 焼土ブロック・焼土粒・ローム粒少量
 3 暗褐色土 白色粘質土 焼土粒・ローム粒少量
 4 黄褐色土 ロームブロック

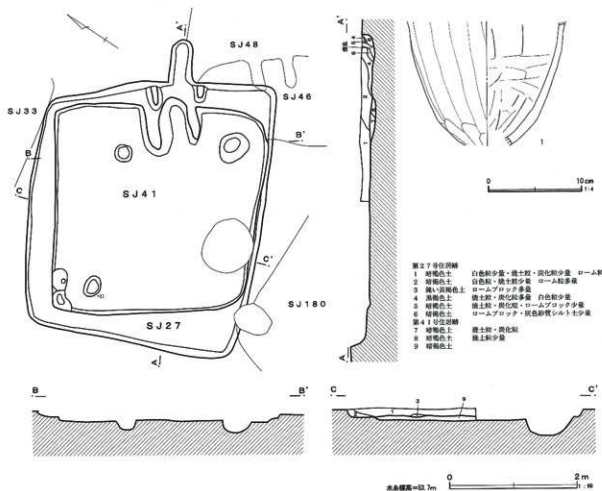
水平標高=53.6m 0 2m



第43図 第26号住居跡・出土遺物

第27表 第26号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	(15.4)	(5.1)	-	ABCDE	普通	にぶい褐	25	
2	土師器 坏	(13.0)	(4.5)	-	ABCDE	良好	オリーフ黒	15	
3	土師器 甕	-	(13.6)	-	BDEH	普通	にぶい黄褐	90	No.17カマド 胴部最大径15.4cm
4	土師器 甕	-	(14.7)	4.2	BDEH	普通	褐	60	No.3カマド
5	土師器 甕	-	(11.9)	(7.2)	ABDEH	不良	褐	30	No.3カマド 内外面やや磨耗
6	土師器 甕	(19.2)	(24.8)	-	BEHJ	不良	橙	60	胴部最大径約17cm



第44図 第27・41号住居跡・出土遺物

第28表 第27号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 甕	-	(13.2)	-	ABEHU	普通	にぶい黄橙	30	カマド 外面全体的に粘土付着

けである。

時期は6～7世紀と考えておきたい。

第28号住居跡（第45図）

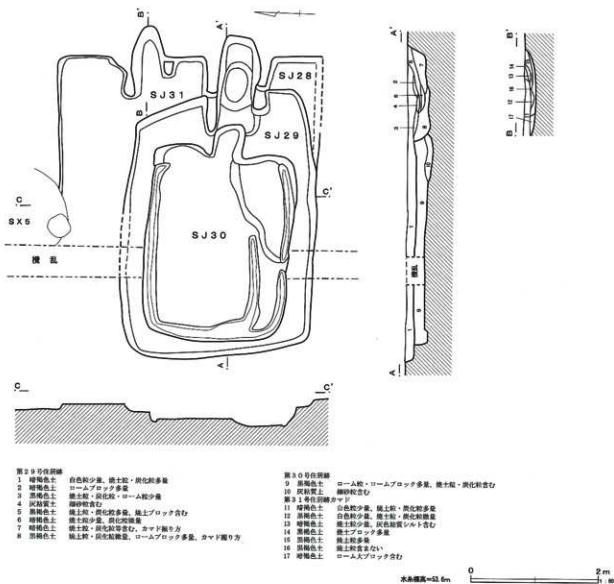
調査区の西側、Y-43グリッドに位置する。第29・30・31・33号住居跡と重複関係にある。第29号住居跡より古い。第30・31号住居跡との新旧関係はよくわからなかったが、第31号住居跡の右袖の一部を壊している可能性がある。

平面形は長方形である。規模は長軸4.76m、短軸3mほどと考えられる。深さは0.20mである。主

軸方向は、N-87°-Eを指す。

床面は第29号住居跡によって壊されているためほとんど残っていないが、カマド周辺は平坦である。壁溝は検出されなかった。柱穴や貯蔵穴なども検出されなかった。

カマドは東壁の中央に造られていた。第29号住居跡のカマドが重複して造られていたため、遺構確認時には長大なカマドに見えた。第29号住居跡のカマドによって燃焼部の様子はわからなくなっていた。7層8層は、第29号住居跡のカマド掘り方としたが、本住居跡のカマドあるいはカマドの掘り方を埋め戻



第29号住居跡

- 1 暗褐色土 白色粘少量、焼土粒・炭化粒多量
- 2 暗褐色土 ロームブロック多量
- 3 暗褐色土 焼土粒・炭化粒・ローム粒少量
- 4 灰粘質土 腐植質含む
- 5 黒褐色土 焼土粒・炭化粒多量、焼土ブロック含む
- 6 暗褐色土 焼土粒少量、炭化粒少量
- 7 暗褐色土 焼土粒・炭化粒等含む、ホムド掘り方
- 8 黒褐色土 焼土粒・炭化粒少量、ロームブロック多量、カマド掘り方

第30号住居跡

- 9 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、焼土粒・炭化粒含む
- 10 灰粘質土 腐植質含む
- 11 暗褐色土 白色粘少量、焼土粒・炭化粒多量
- 12 黒褐色土 白色粘少量、焼土粒・炭化粒少量
- 13 暗褐色土 焼土粒少量、炭化粘質シト含む
- 14 黒褐色土 炭土ブロック多量
- 15 黒褐色土 焼土粒多量
- 16 黒褐色土 焼土粒含まない
- 17 暗褐色土 ローム土ブロック含む

第45図 第28・29・30・31号住居跡

してそっくり使ったものと考えられる。袖は両袖とも残っていた。この袖の延長上に第29号住居跡の袖が造られていたために長大に見えたのである。白色粘土を用いて構築され、右袖は長さ55cm、左袖は64cm残っていた。

遺物は第30号住居跡まで一括で取り上げたため混入が多いが、4～8の坏が本住居跡あるいは第30号住居跡のものと考えられる。

時期は、1～3が本住居跡より新しい第29号住居跡のものと考えられることから、本住居跡は9世紀

前半と考えておきたい。

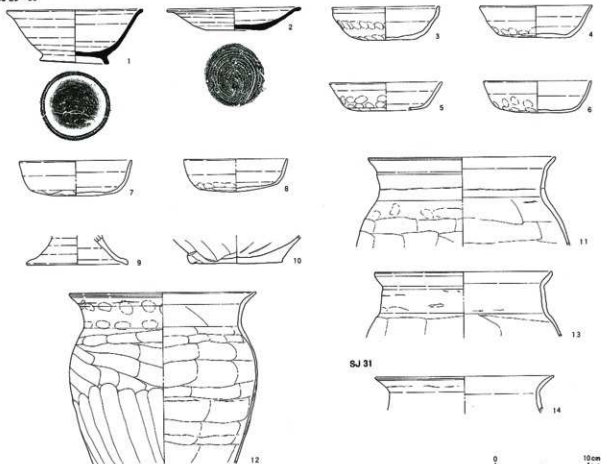
第29号住居跡（第45図）

調査区の西側、Y-43グリッドに位置する。第28・30・31・33号住居跡と重複関係にあり、いずれよりも新しい。

平面形は、長方形である。規模は長軸4.20m、短軸3.10m、深さ0.18mである。主軸方向は、N-80°-Eを指す。

床面は第30号住居跡と一緒に掘り下げてしまった

SJ 28~30



第46図 第28・29・30・31号住居跡出土遺物

第29表 第28・29・30号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 高台付碗	14.0	5.8	7.0	BCE	普通	灰	95	SJ28~30 やや歪みあり
2	須恵器 皿	14.2	2.3	6.2	BCJE	普通	灰	80	SJ28~30 末野産
3	土師器 坏	11.3	3.5	5.7	ABCDE	良好	明赤褐	100	SJ28No.4
4	土師器 坏	12.0	3.4	7.3	BCDE	普通	にぶい褐	60	SJ28カマド やや歪みあり
5	土師器 坏	11.8	(3.0)	(8.4)	ABCDE	普通	橙	30	SJ28~30
6	土師器 坏	11.3	3.4	8.0	ABCDE	良好	橙	75	SJ28~30
7	土師器 坏	(11.8)	3.6	(8.4)	ABC	良好	にぶい褐	50	SJ28~30
8	土師器 坏	10.8	3.4	8.3	ABCDE	普通	橙	50	SJ28~30
9	土師器 台付甕	-	(3.0)	10.7	ABCD	良好	にぶい褐	100	SJ28~30No.1
10	土師器 甕	-	(2.9)	9.6	ADEH	普通	橙	90	SJ28No.3
11	土師器 甕	(20.0)	(9.4)	-	ABDEH	普通	にぶい橙	50	SJ28カマド
12	土師器 甕	(20.0)	(18.0)	-	ABCE	良好	橙	20	SJ28No.2
13	土師器 甕	(19.0)	(6.9)	-	ABDEH	普通	にぶい赤褐	40	SJ28カマド

第30表 第31号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
14	土師器 甕	(19.0)	(4.0)	-	EH	普通	にぶい褐	10	

ためによくわからないが、断面を観察する限りでは平坦である。壁溝や貯蔵穴、ビットなどは検出されなかった。覆土は暗褐色土単層であるが自然堆積と思われる。

カマドは東壁の中央やや南寄りに造られていた。白色粘土を用いて構築されていた。第28号住居跡のカマドの上に造られており、同住居跡のカマドをかなり利用していると考えられる。住居跡の規模を縮小しているため、燃焼部は壁の外側まで張り出し、第28号住居跡のカマドを埋めて掘り方状にしている。火床面は床面とほぼ同じ高さである。袖は両袖とも検出された。右袖は長さ40cm、左袖は65cm残存していた。

遺物は土師器の杯・甕・台付甕、須恵器の高台付碗・皿が出土しているが他の住居跡と一括で取り上げた。1～3が本住居跡に伴うものと考えられる。

時期は9世紀後半である。

第30号住居跡 (第45図)

調査区の西側、Y-43グリッドに位置する。第28・29・31号住居跡と重複関係にあり、第28・29号住居跡より古い。第31号住居跡との新旧関係はつかめなかった。

平面形は長方形である。規模は長軸3.10m、短軸2.30m、深さは第29号住居跡の床面から15cmであるが、検出面から測ると30cmを越える。主軸方向は、N-92°-Eを指す。

床面は平坦で、やや硬化していた。壁溝はカマドの設置される東壁を除いて確認された。南側は二重になっていたことから拡張された可能性がある。覆土はロームブロックを多量に含み、埋め戻された可能性がある。柱穴は確認されなかった。

カマドは東壁の中央に造られていた。燃焼部は浅い土塊状に壁を掘り込み突出している。覆土には灰色の粘質土が多量に入っており、第28・29号住居跡と同じように白色粘土を用いて構築されていたようである。袖は検出されなかった。

掘り方は、南東部分が特に顕著に掘り込まれている。ロームブロックを多量に含む。

遺物は第28・29号住居跡と一緒に取り上げてしまったが、第29号住居跡が9世紀後半頃と考えられ、第28号住居跡との差がはっきり出ない。時期は9世紀前半としておきたい。

第31号住居跡 (第45図)

調査区の西側、Y-43グリッドに位置する。第28・29・30・33号住居跡、SX5と重複関係にあり、第28・29号住居跡、SX5より古い。第30号住居跡との新旧関係は不明である。第33号住居跡は縄文時代前期である。

平面形は長方形と推定される。西側に攪乱があったため住居跡西壁は検出できなかった。また、南側は第28号住居跡に壊されている可能性がある。規模は長軸3.5mを越えない長さ、短軸は2mまでは検出できた。深さ0.15mである。主軸方向は、N-90°-Eを指す。

床面は平坦である。壁溝、柱穴などは検出されなかった。

カマドは東壁に造られていた。燃焼部は浅い土塊状で、半分ほど壁を掘り込んでいる。火床面は床面とほぼ同じ高さである。袖は白色粘土を貼り付けて造られていた。

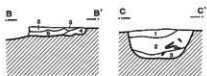
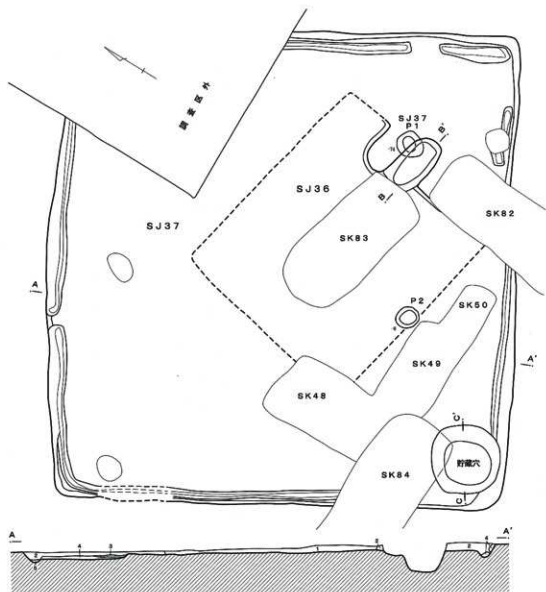
遺物はほとんどなく、図示できたのは土師器の甕1点である。

時期は、第28号住居跡との関係から9世紀前半頃としておきたい。

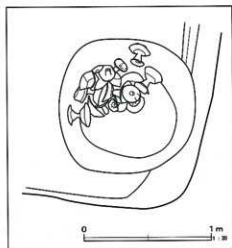
第32号住居跡 (第40図)

調査区の西側、Z-43グリッドに位置する。第24・33・42・45号住居跡と重複関係にあり、第42号住居跡より古く他の住居跡より新しい。

平面形は、長方形で、規模は長軸3.64m、短軸3.22m、深さ0.12mである。主軸方向は、N-55°-Eを指す。



- 第36号住居跡
 1 黄褐色土 白色砂・焼土粒・ローム粒
 第36号住居跡カマド
 1 黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量、焼土粒少量
 2 黄褐色土 焼土粒少量
 3 黄褐色土 焼土粒多量、炭化灰層
 4 黄褐色土 ローム粒・焼土粒少量
 第37号住居跡
 1 黄褐色土 白色砂、ローム粒・焼土粒少量
 2 黄褐色土 ロームブロック混入（貼り床か）
 4 黄褐色土 ローム粒少量
 5 褐色土 ロームブロック多量
 第37号住居跡貯蔵穴
 1 黄褐色土 焼土粒、ローム粒多量
 2 黄褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量
 3 黄褐色土 ロームブロック含む



水平線高=02.6m



第47図 第36・37号住居跡・遺物出土状況



第48図 第36号住居跡出土遺物

第31表 第36号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	ロクロ 高台付碗	(14.0)	5.3	6.5	AEHJ	不良	褐	45	カマド
2	土師器 坏	(11.4)	3.9	(5.0)	AEHJ	普通	橙	25	カマド 内外面黒色付着物有り

床面は平坦である。壁溝は認められなかった。

カマドは東壁の中央に造られていた。火床面は床面とほぼ同じ高さで、掘り方は15cmほど深く掘り下げていた。カマド規模は160cm×50cmほどであった。袖は右袖が68cm、左袖は40cm残っていた。左袖の基部には土師器の甕の上半分が補強材として使われていた。

柱穴等は検出されなかった。

遺物は細片が少量出土したのみで図示できたのはカマドの芯材に使われていた土師器の甕のみである。時期は7世紀と考えておきたい。

第34号住居跡 (第36図)

調査区の西側、X-42、Y-42グリッドに位置する。第20・35号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が最も新しい。遺跡の西端にあたり、カマド以外の住居跡のほとんどを新しい河川流路によって流失している。

平面形は不明である。規模は南北2.18m、東西0.54m残存していた。深さ0.21mである。主軸方向は、N-87°-Eを指す。

床面はほとんど残っていないが、全体にマンガンや鉄分が沈着していた。壁溝は検出されなかった。

カマドは東壁の南寄りに造られていた。燃焼部は土壌状で、壁を掘り込んでいた。10cmほど掘り方を埋めて火床面としている。燃焼部の規模は幅80cm、

奥行き90cmである。袖は左袖が確認された。右袖部分は住居跡の角にあたるため、住居跡の壁を利用している可能性がある。

遺物は、第20号住居跡と一括であるが、第37図3・5・7・10・11は本住居跡に伴うと考えられる。時期は8世紀後半である。

第35号住居跡 (第36図)

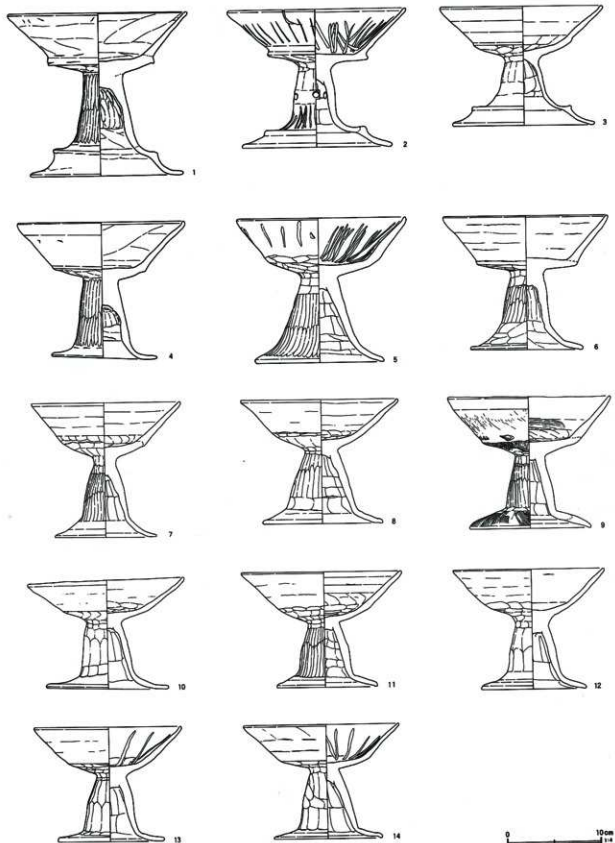
調査区の西側、X-42、Y-42グリッドに位置する。第20・34号住居跡と重複関係にあり、第20号住居跡より新しく、第34号住居跡より古い。第34号住居跡と同じく、カマド以外の住居跡のほとんどを河川流路によって流失している。

平面形は不明である。規模は南北方向が2.82m、東西方向は約1m残存していた。主軸方向は、N-88°-Eを指す。

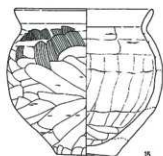
床面の状況は、ほとんど残っていないため不明である。壁溝もなかったようである。

カマドは東壁に造られていた。上を削られていたため残存状態はよくなかった。土壌状に掘られた部分に焼土粒、炭化粒が多量に含まれていたためカマドと判断した。袖は検出されなかった。

遺物は、土師器の坏の小破片が出土している。遺物の時期は9世紀のものであるが、遺構は重複関係から8世紀代のものと考えられる。



第49图 第37号住居跡出土遺物(1)



第50図 第37号住居跡出土遺物(2)

第32表 第37号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	19.0	17.2	16.3	ABDEH	普通	明赤褐	100	貯穴 No.10 やや歪みあり
2	土師器 高坏	18.6	14.5	15.7	ABCDEG	普通	明赤褐	100	貯穴 No.11 脚部円孔5ヶ所 補修痕有
3	土師器 高坏	16.9	12.5	15.0	ABCDEG	普通	橙	100	貯穴 No.3 内外面磨耗
4	土師器 高坏	17.5	14.5	11.2	ABDEH	普通	にぶい橙	95	貯穴 No.16
5	土師器 高坏	17.7	15.1	13.4	ABCDEG	普通	明赤褐	100	貯穴 No.2
6	土師器 高坏	17.2	14.1	11.9	ABCDE	良好	橙	90	貯穴 No.4, 貯穴 No.5, 貯穴 No.7
7	土師器 高坏	15.6	14.0	10.8	ABCDEG	普通	明赤褐	90	貯穴 No.14
8	土師器 高坏	16.5	13.0	12.6	ABCDEG	普通	明赤褐	100	貯穴 No.9
9	土師器 高坏	17.0	13.8	12.7	ABCDEG	良好	にぶい赤褐	100	貯穴 No.6
10	土師器 高坏	16.5	11.4	12.8	ABCDEG	普通	明赤褐	95	貯穴 No.1 歪みあり
11	土師器 高坏	16.8	12.1	10.6	ABCDEG	普通	橙	90	貯穴 No.13
12	土師器 高坏	15.8	12.6	11.0	ABCDEG	普通	明褐	95	貯穴 No.7
13	土師器 高坏	15.4	12.0	11.1	ABCDEG	普通	明赤褐	95	貯穴 No.15
14	土師器 高坏	16.2	12.0	11.3	ABCDEG	普通	明赤褐	95	貯穴 No.12 外面やや磨耗する
15	土師器 小型甕	14.5	15.5	6.3	BCDEG	普通	にぶい橙	100	No.17
16	土師器 鉢	12.0	6.0	5.5	ABCDEG	普通	にぶい赤褐	100	貯穴 No.8
17	土師器 鉢	9.4	5.2	3.3	ABCDEG	普通	明赤褐	90	No.19

第36号住居跡 (第47図)

調査区の西側、X-44・45グリッドに位置する。第37号住居跡、第48・82・83号土壌と重複関係にあり、第37号住居跡より新しく、各土壌より古い。床面はほとんど削られてカマドが残っていた。掘り方の痕跡を辿って平面を推定した。

平面形は長方形と推定される。規模は長軸3.72m、短軸3.28mほどと推定される。主軸方向は、N-103°-Eを指す。

床面の状況は不明である。柱穴なども確認されなかった。

カマドは東壁の中央に造られていた。燃焼部は壁から少し突出している。燃焼部には棒状の礎が支脚として立っていた。1層は天井崩落土である。軸は白色粘土を少量含んでいた。カマド本体は白色粘土を用いて造られていたであろう。左軸の基部が68cm

ほど残っていた。

遺物は土師器の坏、ロクロ土師器の高台付碗が出土している。

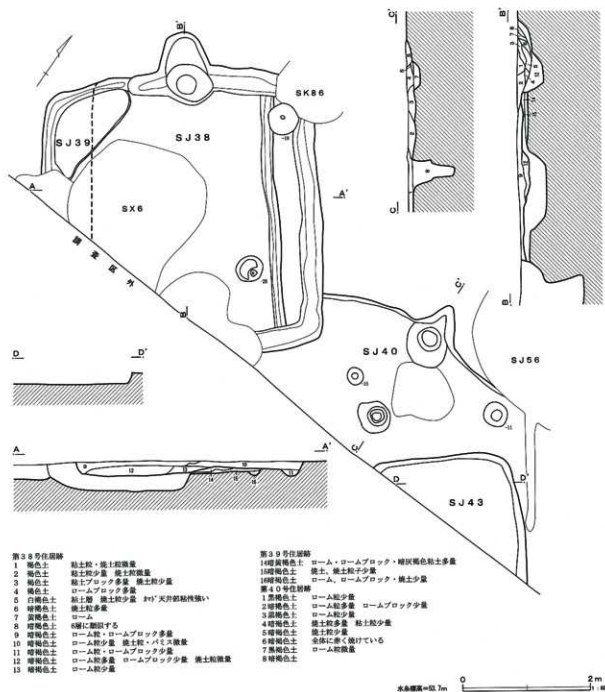
時期は10世紀前半である。

第37号住居跡 (第47図)

調査区の西側、X-44・45、Y-44・45グリッドに位置する。第36号住居跡、第48・49・50・82・83・84号土壌と重複関係にあり、本住居跡が最も古い。北東角は調査区外に出ている。

平面形は方形である。規模は長軸7.50m、短軸7.46m、深さは0.10mである。主軸方向は、N-61°-Eを指す。

床面は平坦で、貼り床状に固められていた。壁溝は所々切れるがほぼ全周する。柱穴はP1・P2が該当すると思われるが、他は検出できなかった。



第51図 第38・39・40・43号住居跡

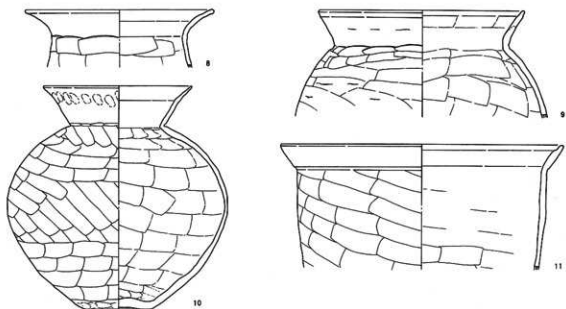
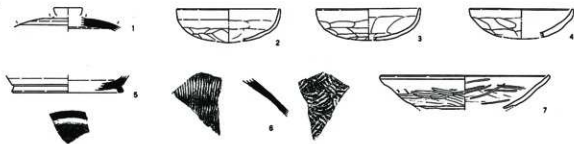
炬は検出されなかった。位置的には第83号土壌のあたりにあったと考えられる。

貯蔵穴は住居跡の南隅に掘り込まれていた。大きさは114cm×110cmで、深さは31cmである。中からは、多量のほぼ完形の土器が出土した。遺物は住居跡の内側から転落したような状況であった。覆土はロー

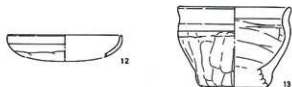
ム粒やロームブロックが多量に入っていることから埋められたとも考えられ、その時に土器も一緒に埋められた可能性がある。

住居跡の掘り方は北西及び南西の壁に沿って掘られていた。幅1.4mの帯状で、深さは5cm前後であった。

SJ 38



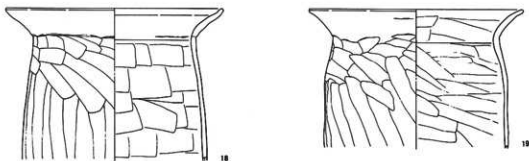
SJ 39



SJ 40



SJ 43



第52图 第38·39·40·43号住居跡出土遺物

第33表 第38号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 蓋	—	(1.5)	—	EHJ	良好	灰黄褐	10	
2	土師器 坏	(10.8)	(3.5)	—	ABCDE	普通	にぶい黄褐	15	
3	土師器 坏	(10.8)	(3.4)	—	ABCDE	普通	橙	25	
4	土師器 坏	(11.0)	(3.0)	—	ABEH	普通	にぶい橙	15	
5	須恵器 高台付碗	—	(1.8)	(11.8)	EH	良好	灰白	10	
6	須恵器 甕	—	—	—	EH	良好	灰	破片	
7	土師器 高坏	(18.0)	(3.5)	—	ABDEH	普通	にぶい赤褐	30	
8	土師器 甕	20.0	(6.1)	—	ABCDE	普通	橙	15	No.3
9	土師器 甕	(21.5)	(11.1)	—	ABCDE	普通	橙	25	No.2 磨耗著しい
10	土師器 甕	15.6	23.3	7.0	ABCDE	普通	橙	40	
11	土師器 甕	(29.6)	(13.0)	—	ABCDE	普通	明褐	15	No.1 磨耗著しい

第34表 第39号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
12	土師器 坏	(12.0)	(2.3)	—	ABDEH	普通	橙	10	
13	土師器 鉢	(12.0)	8.4	7.2	ABDEH	普通	にぶい黄褐	15	

第35表 第40号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
14	土師器 坏	14.0	4.0	—	ABCDEJ	良好	橙	100	No.1 口径は楕円形

第36表 第43号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
15	土師器 坏	11.4	3.2	—	BEHJ	普通	にぶい黄橙	75	No.4
16	土師器 坏	(14.0)	(2.9)	—	AEH	普通	にぶい褐	10	
17	土師器 坏	(14.0)	(4.6)	—	ABDEH	不良	橙	30	No.3 底部中央付近やや外反
18	土師器 甕	(23.0)	(16.0)	—	ABEHJ	普通	橙	60	No.2
19	土師器 甕	(22.6)	(14.7)	—	ABDEHJ	普通	にぶい黄橙	40	No.1

貯蔵穴から出土した遺物は、高坏14個体、鉢1個体である。他に住居跡床面から小型甕1個体が完形で出土した。

時期は5世紀である。

第38号住居跡 (第51図)

調査区の西側、Z-45グリッドに位置する。南角は調査区外に出る。第39・40号住居跡、第56号土壌、第6号竪穴状遺構と重複関係にあり、本住居跡が最も新しい。

平面形は、長方形である。規模は長軸4.50m、短軸3.62m、深さ0.12mである。主軸方向は、N-39°-Wを指す。

床面は第6号竪穴状遺構にかかる部分に貼り床が施される。壁溝は、西側を除いて掘り込まれていたようである。

カマドは東壁の中央に造られていた。燃焼部は壁を掘り込んでいた。火床面は床面より下がっている。

袖は検出していない。柱穴と考えられるものは確認されなかった。

遺物は、土師器の坏・甕、須恵器の蓋が出土している。7・10は混入である。時期は8世紀前半～中葉である。

第39号住居跡 (第51図)

調査区の西側、Z-45グリッドに位置する。南角は調査区外に出る。第38・40号住居跡、第6号竪穴状遺構と重複関係にある。遺構検出時には識別できなかったが、第38号住居跡より古い住居があることがわかり、遺構番号を付した。土層観察の結果、第6号竪穴状遺構より古いことがわかった。第40号住居跡との直接の新旧関係はつかめなかったが、出土遺物から本住居跡のほうが新しいと判断した。

平面形は長方形である。規模は長軸4.50m、短軸3.70m、深さ0.10mである。主軸方向は、N-39°-Wを指す。

床面は第38号住居跡・第6号竪穴状遺構に切られてほとんど残っていない。壁溝は全周していたと思われる。

カマドは検出されなかったが第38号住居跡のカマドが重複している可能性もある。

遺物は、あまり出土しなかった。図示できたのは土師器の坏と鉢だけである。時期は8世紀前半以前と考えておきたい。

第40号住居跡 (第51図)

調査区の西側、Z-45・46グリッドに位置する。南側の大半は調査区外に出る。第38・39・43・56号住居跡と重複関係にある。第38・39・43号住居跡より古い、第56号住居跡との新旧関係はわからなかった。

平面形は不明である。規模は東西方向3.4m、南北方向2.3m検出した。主軸方向は、N-1°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で、壁溝は検出されなかった。柱穴も確認されなかったが、カマドの焚口から1mほど前に深さ65cmのピットが検出された。中位で段を持ちしっかりしたピットであった。

カマドは北壁に造られていた。燃焼部は浅い皿状に掘り込まれ、壁からやや突出している。袖は検出されなかった。

遺物は土師器の坏が出土したのみである。時期は6世紀後半と考えられる。

第41号住居跡 (第44図)

調査区の西側、Z-43・44グリッドに位置する。第27・46号住居跡と重複関係にあり、第27号住居跡より古い。第46号住居跡との新旧関係は不明である。

平面形は方形である。規模は長軸3.34m、短軸3.30m、深さ0.07mである。主軸方向は、N-64°-Eを指す。

床面は平坦で、壁溝は検出されなかった。柱穴と断定できるものも検出されなかった。

カマドは東壁のやや南寄りに造られていた。燃焼部は浅く掘り込まれ、壁内に取まっている。袖は両側で確認されたが、基底部分がわずかに残っていたのみである。右袖は長さ50cm、左袖は幅広で長さは70cmである。

遺物は、出土しなかった。

時期は不明であるが、本住居跡に重複する第27号住居跡より先行するものである。

第42号住居跡 (第40図)

調査区の西側、Z-43グリッドに位置する。第24・32・33・45号住居跡と重複関係にあり、第32・45号住居跡より古い。第24号住居跡との新旧関係は不明である。第33号住居跡は縄文時代前期の住居跡である。第32号住居跡の床面で、ロームブロックを多量に混入したカマドを検出したことから、埋め戻して第32号住居跡を構築したものと考えられる。

平面形は方形である。規模は長軸3.1mで、短軸は2.9mである。深さはカマド側の壁がろううじて4cmほど掘ることができた。主軸方向は、N-33°-Wを指す。

カマドは床面から20cmほど掘り込まれた後、半分ほど埋められ火床面としていた。検出された規模は170cm×66cmである。袖は第32号住居跡構築の際に壊されている。

柱穴なども確認されなかった。

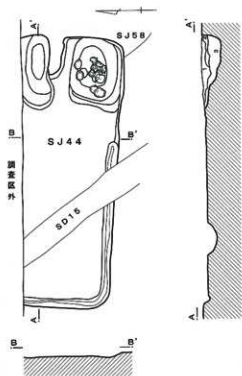
遺物は、出土していない。

時期は第32号住居跡が7世紀後半頃と考えられるのでそれ以前である。

第43号住居跡 (第51図)

調査区の西側、Z-46グリッドに位置する。第40号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が新しい。遺構の南半分は調査区外に出る。

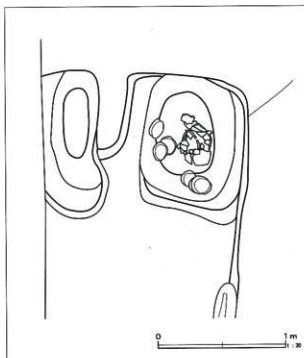
平面形は不明であるがおそらく方形になるのではないと思われる。規模は、東西方向が2.00mで、南北方向は1.92mまで検出した。深さは0.25mで



第44号住居跡カマド
 1 暗褐色土 焼土殻・焼土ブロック多量 炭化灰を含む
 2 暗褐色土 焼土殻少量
 3 暗褐色土 ローム殻・ロームブロック多量 30° 傾り方

断面縮尺=5:5m 0 2m

第53図 第44号住居跡・遺物出土状況



ある。主軸方向は、N-44°-Wを指す。

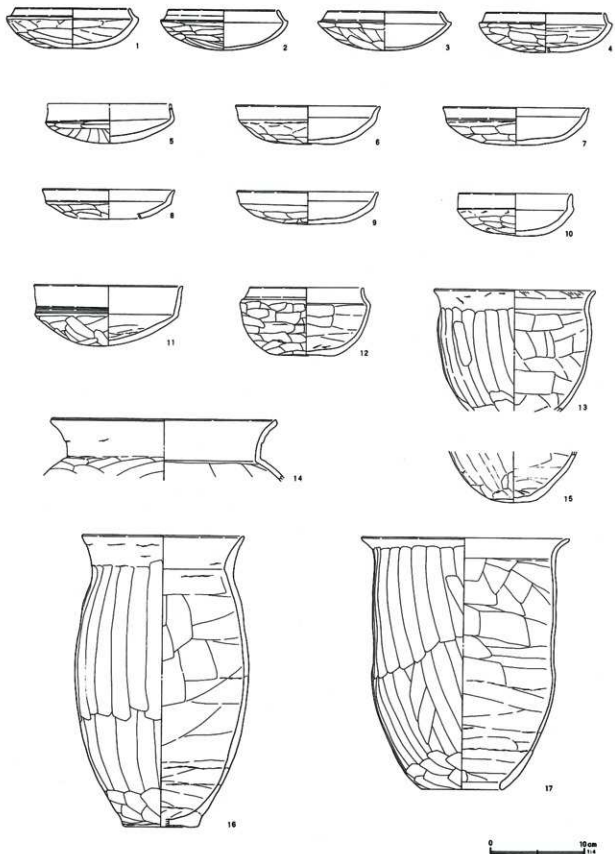
床面は平坦で、壁溝やピットなどは確認されなかった。

カマドも検出されなかった。

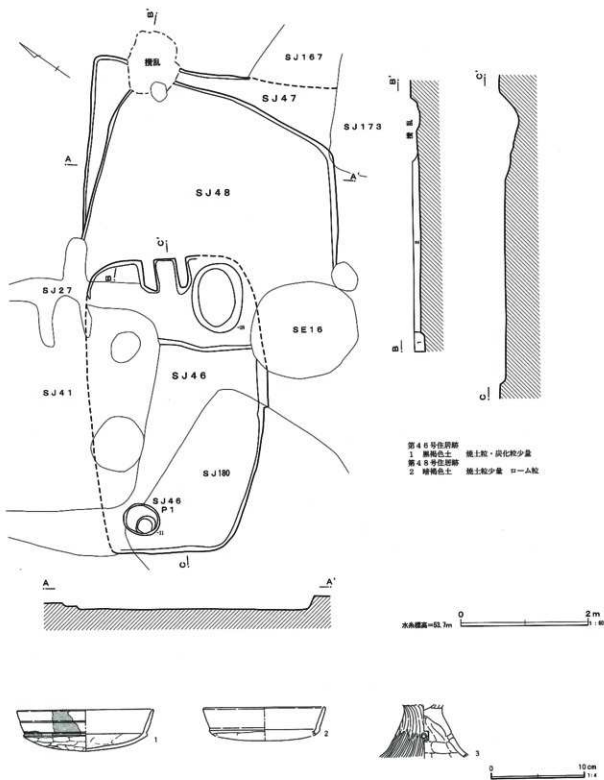
遺物は土師器の坏・甕が出土している。17は混入で第40号住居跡の遺物であろう。時期は7世紀後半～8世紀初である。

第37表 第44号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	12.2	4.3	-	ABDH	普通	橙	100	貯穴 No.4
2	土師器 坏	(11.6)	4.3	-	ABDEH	普通	橙	90	貯穴 No.11
3	土師器 坏	(11.8)	4.2	-	ADHU	不良	にぶい褐	40	カマド
4	土師器 坏	(12.6)	4.2	-	ABDEH	普通	にぶい褐	25	
5	土師器 坏	(13.0)	4.2	-	ABEH	普通	灰褐	95	貯穴 No.2
6	土師器 坏	15.3	4.0	-	BEHU	不良	橙	90	貯穴 No.8, 貯穴 No.10
7	土師器 坏	15.4	4.0	-	BDHU	不良	橙	96	貯穴 No.6
8	土師器 坏	(14.0)	(3.0)	-	AEH	不良	橙	15	カマド
9	土師器 坏	14.8	3.5	-	ABEHU	不良	橙	100	貯穴 No.5
10	土師器 坏	12.0	4.4	-	ADEH	普通	橙	100	貯穴 No.3
11	土師器 坏	15.7	6.4	-	ADEH	普通	橙	100	貯穴 No.1
12	土師器 鉢	12.0	7.2	7.0	ABDH	普通	にぶい褐	90	貯穴 No.9
13	土師器 甕	(17.0)	(12.7)	-	BDHU	普通	にぶい褐	30	No.12
14	土師器 甕	(23.6)	(6.5)	-	BHU	不良	にぶい黄褐	20	No.13
15	土師器 甕	-	(5.4)	5.0	BDEHU	不良	灰黄褐	60	貯蔵穴
16	土師器 甕	(17.2)	30.5	(8.0)	ABEHU	不良	橙	40	カマド 磨耗著しい
17	土師器 甕	(22.0)	26.3	8.5	BEHU	不良	橙	60	貯穴 No.8 やや歪み有り



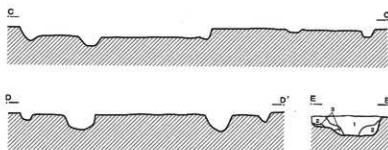
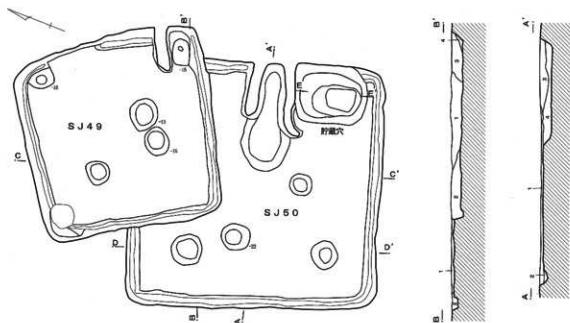
第54图 第44号住居跡出土遺物



第55図 第46・47・48号住居跡・出土遺物

第38表 第46・48号住居跡出土遺物観察表

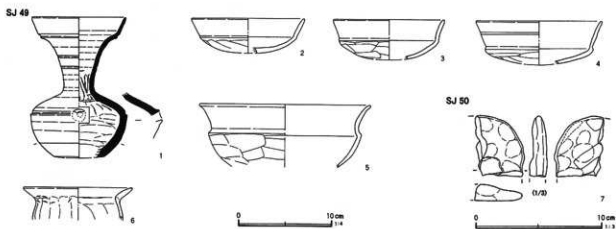
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	(14.4)	4.3	—	BCDE	普通	灰黄褐	40	SJ46P1 外面一部保付着
2	土師器 坏	(12.8)	(3.0)	—	ABDEH	普通	橙	15	SJ48
3	土師器 高坏	—	(5.5)	—	ABCD	普通	にぶい黄褐	80	SJ46 円形透孔4ヶ所



- 第49号住居跡
- 1 緑褐色土 ローム・ローム粒子少量 ロームブロック少量
 - 2 緑褐色土 ローム・ローム粒子・粘土多量 白色粒子少量
 - 3 緑褐色土 焼土・焼土ブロック少量 炭化粒少量
 - 4 緑褐色土 焼土粒子・ローム少量
- 第50号住居跡貯蔵穴
- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化粒・ローム粒
 - 2 緑褐色土 ローム粒多量
 - 3 焼い・黄褐色土 ローム粒多量 ロームブロック粒付
- 第50号住居跡
- 1 緑褐色土 白色粒・ローム粒含む 焼土粒少量
 - 2 緑褐色土 ローム粒多量
 - 3 緑褐色土 焼土粒多量 焼土ブロック・炭化粒含む
 - 4 緑褐色土 ローム粒・ロームブロック多量 焼土粒少量
10% 盛り方

水糸標高=53.6m

0 2m



第56図 第49・50号住居跡・出土遺物

第39表 第49号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 甕	(10.0)	14.8	5.4	EHU	良好	灰	70	
2	土師器 坏	(12.0)	3.7	—	AH	不良	橙	15	磨耗著しい
3	土師器 坏	(11.8)	(4.2)	—	AEHU	不良	にぶい橙	30	No.1カマド
4	土師器 坏	(13.4)	(4.5)	—	AEH	普通	灰黄褐	20	
5	土師器 碗	(18.2)	(6.6)	—	AHJ	普通	褐灰	15	
6	土師器 小型甕	(11.6)	(3.5)	—	BEHU	不良	橙	15	

第40表 第50号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
7	円盤状土製品	残存長4.3cm	幅3.7cm	—	ABCDE	普通	黄褐	—	厚さ1.4cm 土師質

第44号住居跡 (第53図)

調査区の西側、X-45・46グリッドに位置する。住居跡の北側半分は調査区外に出る。第58号住居跡、第15号溝跡と重複関係にあり、第15号溝跡より古く、第58号住居跡より新しい。

平面形は長方形になるものと思われる。規模は長軸4.28mで、短軸は1.54mまで検出した。深さは0.08mで浅い。主軸方向は、N-96°-Eを指す。

床面は平坦で、カマド前から住居跡中央部及び貯蔵穴の周辺は硬化していた。壁溝は貯蔵穴の手前まで掘られていた。柱穴は検出されなかった。

カマドは東壁に造られていた。カマドからちょうど左半分は調査区外である。燃焼部は壁内に取まっている。火床面は床面よりやや低い。3層は掘り方である。袖は右袖が確認できた。白色粘土を使っており、長さは56cm残存していた。

貯蔵穴はカマド右側、住居跡の北東隅に掘られていた。隅丸長方形で、大きさは長軸110cm、短軸84cm、深さは30cmであった。中からは土師器瓶1点、坏数点がまとめて出土した。そのうち、坏5点は完形で出土した。出土状況は住居跡内側寄りの底面に近く、投げ込まれたような状況ではなく、置かれた状態か出土状況に近い状態のまま落ち込んだものと思われる。このほかに、カマドの反対側の壁近くで甕が出土した。

時期は6世紀後半である。

第45号住居跡 (第40図)

調査区の西側、Z-43グリッドに位置する。第24

・32・33・42号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が新しい。

平面形は長方形と推定される。規模は長軸が3.3mほどと推定され短軸は2.75mである。深さは0.1mである。主軸方向は、N-76°-Eを指す。

床面は平坦で、あまり硬化しておらずわかり難かった。壁溝も確認されなかった。

カマドは東壁のやや南寄りに造られていた。燃焼部は住居跡内にあったと思われる。煙道部が1.2mほど壁から突出している。袖は右袖の基部が僅かに確認されたが残存状態は悪い。

柱穴などは確認されなかった。

遺物は少なく、図示できたのは土師器の坏2点である。

時期は7世紀後半と考えられる。

第46号住居跡 (第55図)

調査区の西側、Z-44グリッドに位置する。第27・41・47・48・180号住居跡、第16号井戸跡と重複関係にある。各遺構との重複が激しく、検出できたのはカマドとその反対側の壁の一部分だけであった。第27号住居跡より古く、第47・48号住居跡より新しい。第41号住居跡との新旧関係はよくわからなかったが、本住居跡のほうが古い可能性がある。

平面形は歪んだ長方形である。規模は、長軸は4.62mあり、短軸は2.9m位と推定される。深さは0.1mでごく浅い。主軸方向はN-51°-Eを指す。

床面の状況はあまりよくわからないが、ほぼ平坦で壁溝は検出されなかった。

カマドは東壁に造られていた。燃焼部は小さく掘り込まれ、壁内に取まっている。袖は両袖とも確認できた。白色粘土を混入し、右袖は長さ48cm、左袖は46cm残存していた。

貯蔵穴はカマド右側に掘り込まれていた。長軸110cm、短軸82cmの楕円形で、深さは28cmであった。

ピットは径28cm、深さ11cmのものがカマド反対側の壁際に検出された。本住居跡に伴うものと考えられるが、このほかに柱穴と考えられるものは検出できなかった。

遺物は、ほとんど出土しなかった。図示できたのは土師器の坏、高坏脚部であるが高坏脚部は混入である。

時期は、遺物が1点だけと判断に苦しむが6世紀後半～7世紀と捉えておく。

第47号住居跡（第55図）

調査区の西側、Z-44グリッドに位置する。第27・41・46・48・167・173号住居跡、第16号井戸跡と重複関係にあり、これらの中で最も古いと思われる。遺構は各住居跡の重複によって、ほとんど残っていないが北東側の角が検出された。

平面形は不明であるが方形になるのではないかと推定される。規模は北辺が2.9m、東辺が2.5mまで確認された。主軸方向は東辺で、N-30°-Wを指す。

床面、覆土の状況は不明だが、壁溝、ピットなどは検出されなかった。

カマドや炉も検出されなかった。

遺物は、出土しなかった。時期はよくわからないが、第48号住居跡より古いこと、第46号住居跡から出土している高坏の脚部が本住居跡あるいは第48号住居跡のものである可能性が高いことから、5世紀と考えておきたい。

第48号住居跡（第55図）

調査区の西側、Z-44グリッドに位置する。第27・41・46・47・167・173号住居跡、第16号井戸跡と

重複関係にあり、第47号住居跡より新しく、他の遺構より古いと推定される。

平面形は歪んだ台形と推定される。規模は長軸4.04m、短軸4.00mで、深さは0.05mとごく浅い。主軸方向は、N-20°-Wを指す。

床面は平坦で、壁溝、ピットなどは検出されなかった。覆土は自然堆積と思われる。

カマドや炉も検出されなかった。

遺物は、土師器の坏が1点図示可能なものがあるが、これは第46号住居跡からの混入と考えられる。むしろ第46号住居跡出土遺物に示した高坏脚部が本住居跡あるいは第47号住居跡のものと考えられる。

時期は5世紀と考えておきたい。

第49号住居跡（第56図）

調査区の西側、X-44グリッドに位置する。すぐ東には第124号住居跡がある。第50号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が新しい。

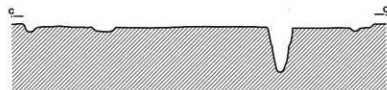
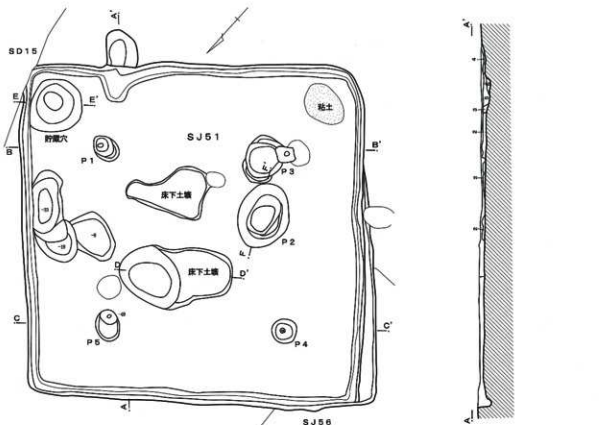
平面形は方形である。規模は長軸3.10m、短軸3.00mである。深さは0.16mである。主軸方向は、N-60°-Eを指す。

床面は平坦で中央部およびカマドのある東隅がやや硬化していた。壁溝は東壁の一部を除いて全周する。ピットは4基検出されたが主柱穴と考えられるものはわからなかった。

カマドは住居跡の東角に造られていた。燃焼部は、現状では浅い土壇状に掘り込まれ、壁内に取まっている。火床面は床面とほぼ同じ高さであつたらしく焼土ブロックが詰まっていた。袖は左袖が確認された。白色粘土を用いて造られていた。長さ70cmであった。右袖はなかった。カマドの設置された位置から考えると、右袖はおそらく住居跡の壁を利用しており、そこから直接天井部を架けていたとしか考えられない。

遺物は、土師器の坏・鉢・小型甕、須恵器の甕が出土している。3の坏はカマドから出土した。

時期は6世紀中葉である。



第51号住居跡

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物少量 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロック多量 (局所厚) |
| 3 暗褐色土 | ローム粒少量 |
| 4 赤褐色土 | 焼土 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒・ロームブロック多量、3層より薄い |
| 6 に近い黄褐色土 | ロームブロック多量 |
- 第51号住居跡床下土壇
- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土・焼土粒子多量、炭化物少量 |
| 2 暗褐色土 | ローム・ローム粒子多量、ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色土 | ローム・焼土少量 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム多量、炭化物少量 |

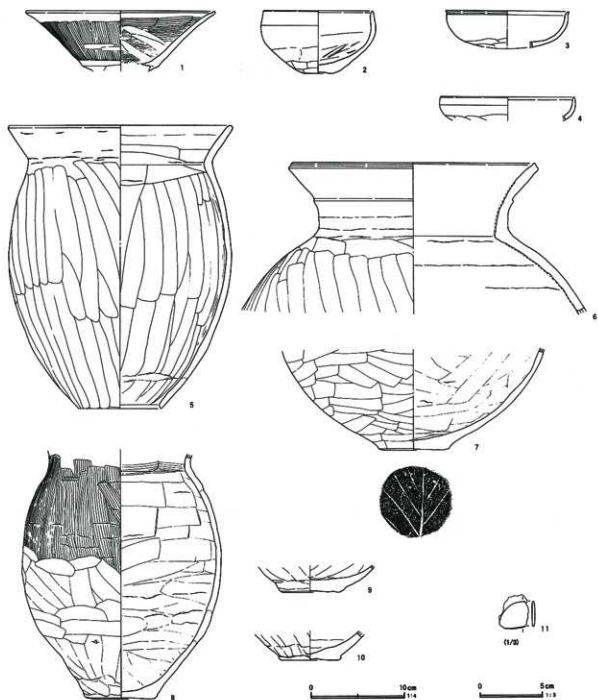
第51号包蔵軒脚坑

- | | |
|-----------|---------------------|
| 1 黒褐色土 | 焼土粒・炭化物、ローム粒少量 |
| 2 暗褐色土 | 1層より焼土粒少ない |
| 3 暗褐色土 | ローム粒多量 |
| 4 に近い黄褐色土 | ロームブロック・ローム粒多量 |
| 5 褐色土 | ローム多量、ローム粒む、ややしまり強い |
- 第51号包蔵軒脚坑2
- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒子、ローム少量 |
| 2 暗褐色土 | ローム・ローム粒子多量、ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒子少量、ローム粒子多量 |

本島標準—33.6m



第57図 第51号住居跡



第58図 第51号住居跡出土遺物

第50号住居跡 (第56図)

調査区の西側、X-43・44グリッドに位置する。第49号住居跡と重複関係にあり、これより古い。

平面形は方形である。規模は長軸3.96m、短軸は3.92mである。深さは0.04mとごく浅い。主軸方向は、N-71°-Eを指す。

床面は平坦で中央部を中心に硬化していた。

カマドは東壁のほぼ中央に造られていた。燃烧部は壁内に収まる。火床面は床面よりやや低く、カマド掘り方は焚口部の下まで大きめに掘られていた。焚口部から奥の壁まで長さが約1.7mになる。袖は白色粘土で造られていた。左袖が長さ84cm、右袖は

第41表 第51号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	(20.0)	(6.3)	—	ABDEH	普通	橙	30	No. 3・4
2	土師器 碗	(11.5)	6.7	3.0	ABH	不良	にぶい橙	40	
3	土師器 碗	(13.0)	(3.8)	—	ABH	不良	にぶい赤褐	10	
4	土師器 坏	(14.0)	(2.5)	—	EH	普通	明赤褐	15	
5	土師器 甌	23.6	29.6	8.8	ABEHJ	普通	橙	70	No. 1貯蔵穴 内面は大部分剥離
6	土師器 甕	(25.6)	(15.8)	—	ABDEHJ	普通	橙	15	
7	土師器 甕	—	(10.6)	7.4	ABDEHJ	普通	橙	50	No. 2 底部木葉痕 頸部径15.0cm
8	土師器 甕	—	(25.5)	7.6	ABHJ	普通	にぶい橙	80	
9	土師器 甕	—	(2.8)	6.3	DEHJ	普通	にぶい橙	60	
10	土師器 甕	—	(3.1)	(6.6)	ABDEHJ	普通	橙	25	
11	鉄製品	残存長2.4cm 幅2.0cm 厚さ0.2cm 重さ5.0g					—	破片	板状不明品

114cm検出された。

貯蔵穴はカマドの右側で住居跡の東隅に設置されていた。横に長い隅丸方形で、長軸116cm、短軸90cm、深さは40cmであった。深さ15cmほどのところで段をもち長軸80cm、短軸50cmほどになる。

遺物はほとんど出土しなかった。図示したのは円盤状の土製品で、用途不明であるが中堀遺跡に類例がある。

時期は不明だが、第49号住居跡との関係から6世紀代としておく。

第51号住居跡 (第57図)

調査区の西側、Y-21、Z-46グリッドに位置する。第56号住居跡、第15号溝跡と重複関係にある。第56号住居跡より新しく、第15号溝跡より古い。

平面形は方形である。規模は長軸5.58m、短軸5.36mである。深さは0.07mとごく浅い。主軸方向は、N-139°-Eになる。

床面はほぼ平坦であるが、中央部がごくわずかに窪み気味である。部分的に貼り床状にロームブロックが硬化している箇所があった。壁溝はカマド部分も含めて全周する。主柱穴はP1・3・4・5の4本と考えられる。いずれも径は小さいが、深さは50cm~70cmと深くしっかりしており、古い時期に特徴的な柱穴である。住居跡の南隅には白色粘土が70cmほどの範囲で置かれてあった。

カマドは南東側の壁の東寄りに設置されていた。

壁外を浅く掘り込んでおり、その部分が赤化していた。壁内は掘り方状にやや深く掘り込みロームブロックを埋め戻し、その上を火床面としていたようである。袖は検出できなかった。

貯蔵穴は東隅、カマドの左側に掘り込まれていた。不整形円形で94cm×84cm、深さは70cmと深い。ただし、断面を観察すると下方25cmほどは埋められていた可能性がある。

床下土壌は住居跡の中央に2箇所検出されたが、ほかに土塊状の掘り込みがいくつか見られた。P3に絡む掘り込みには焼土が多量に入っていたが、柱穴に切られていることから、本住居跡は立て替えられている可能性も考えられる。

遺物は、土師器の坏・高坏・甕・甌が出土している。甌は貯蔵穴からの出土である。3は小破片からの復元実測のため器高がやや浅いが、実際はもう少し深いと思われる。

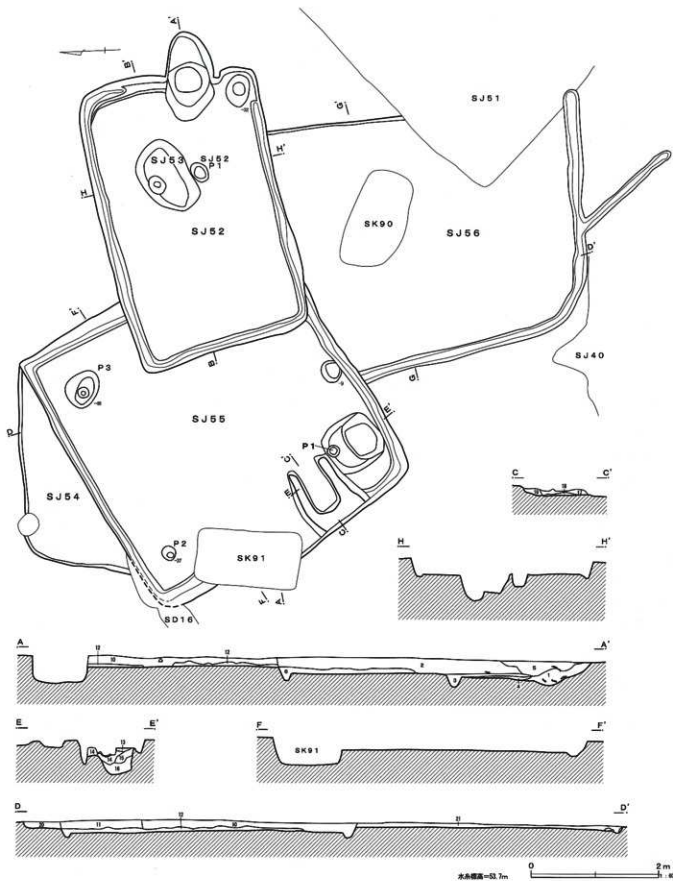
時期は、5世紀後半である。

第52号住居跡 (第59図)

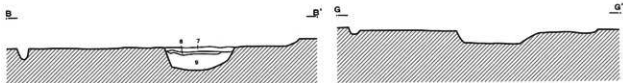
調査区の西側、Y-46グリッドに位置する。第53・55・56号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が最も新しい。

平面形は長方形である。規模は長軸4.46m、短軸2.28mで深さは0.24mである。主軸方向は、N-79°-Eを指す。

床は貼床され2面確認された。壁溝はほぼ全周す



第59图 第52·53·54·55·56号住居跡(1)



第52号住居跡

- 1 黒褐色土 焼土・炭化灰・ローム粒少量
 - 2 暗褐色土 焼土・ローム粒
 - 3 暗褐色土 焼土・炭化灰・灰
 - 4 暗褐色土 焼土・炭化灰・灰・灰色粘質土含む
 - 5 暗褐色土 焼土・焼土ブロック少量
 - 6 暗褐色土 焼土粒少量・ローム粒・ロームブロック少量
- 第53号住居跡
- 7 暗褐色土 焼土・炭化灰少量・ローム粒
 - 8 黒褐色土 焼土・炭化灰少量・灰
 - 9 暗褐色土ローム粒・ロームブロック少量、カマド跡方
- 第54号住居跡
- 10 暗褐色土 焼土・炭化灰・ローム粒少量
 - 11 暗褐色土 焼土・炭化灰・ローム粒・10層よりロームの含まれない
 - 12 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック (粘土)

第55号住居跡カマド

- 17 暗褐色土 焼土・焼土粒少量、焼土ブロック少量
 - 18 暗褐色土 硬質・ローム・ローム粒少量
 - 19 暗褐色土 bに近似、ローム粒少量
- 第56号住居跡跡方穴
- 13 黒褐色土 土砂質
 - 14 暗褐色土 焼土・焼土粒少量
 - 15 暗褐色土 ローム粒少量
 - 16 暗褐色土 ローム・ローム粒少量、ロームブロック・焼土少量
- 第54号住居跡
- 20 暗褐色土
 - 21 暗褐色土 白色粒・焼土粒・ローム粒少量



第60図 第52・53・54・55・56号住居跡(2)

る。ピットは2基検出されたが柱穴とは断定できなかった。覆土は自然堆積と思われる。

カマドは東壁の南寄りに造られていた。焼焼部は土壌状に掘りこまれ、壁から突出している。袖はわずかに残存していた。白色粘土を用いて構築されていた。カマドからは壺などがまとまって出土した。

貯蔵穴はカマドの右側に掘り込まれていた。長さ50cmの楕円形である。深さは32cmでやや小ぶりであるが、位置的に見て貯蔵穴と考えて間違いないだろう。

遺物は、土師器の坏・甕、灰釉陶器碗が出土している。1・2は同一個体の可能性が高い。

時期は9世紀後半である。

第53号住居跡 (第59図)

調査区の西側、Y-46グリッドに位置する。第52号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が古い。床面まで削平されておりカマド掘り方が残っていただけである。

平面形、規模ともに不明である。カマドの方向は、N-62°-Eを指す。

床面および覆土の状況は不明である。

カマドは掘り方と焼焼部の下部だけが残っていた。東向きに造られていたと考えられる。火床面は床面

より下がっていたらしく灰層を含む火床面が確認された。

遺物は、土師器の坏・甕などが出土しているが第55号住居跡との混入がかなりあると考えられる。

時期は、残っているのがカマドだけなので不明と言わざるを得ない。

第54号住居跡 (第59図)

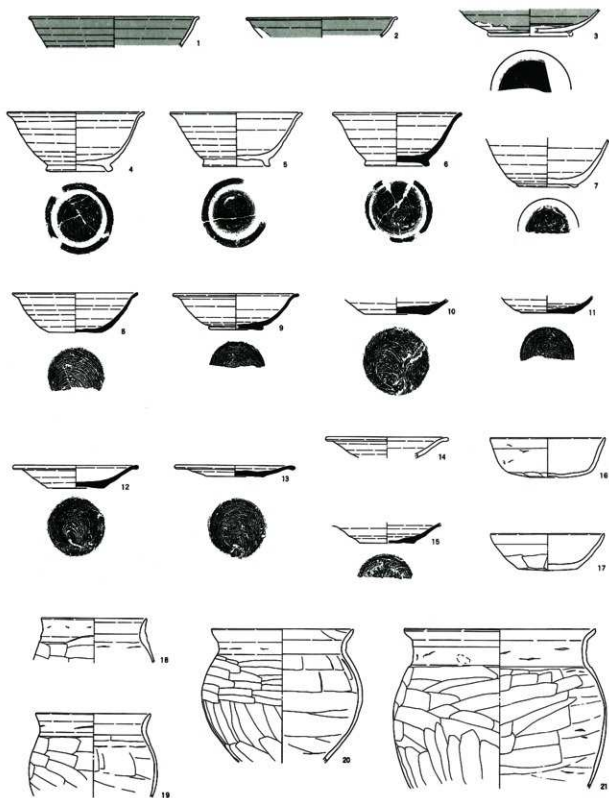
調査区の西側、Y-45グリッドに位置する。第55号住居跡、第16号溝跡と重複関係にあり、本住居跡が最も古い。遺構の大半を第55号住居跡によって壊されている。

平面形は不明であるが、方形であろうか。規模は北辺が3.1m、西辺が1.52mまで検出された。深さは0.1mである。主軸方向は、北辺で測ると、N-89°-Eを指す。

床面はあまり残っていないが平坦で、壁溝はないようである。

カマドは確認していない。床下土壌、ピットは確認できなかった。柱穴と考えられるものは検出できなかった。

遺物は、第55号住居跡に混じって土師器の甕が出土したのみである。時期は、第55号住居跡よりも古いことから5世紀と考えるべき。

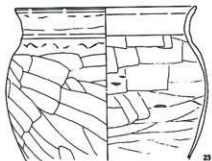


第61图 第52号住居跡出土遺物

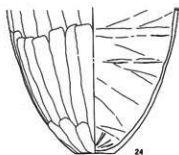
SJ 52



22



23



24



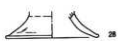
25



26



27



28



29

SJ 53



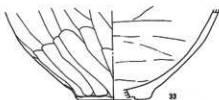
30



31

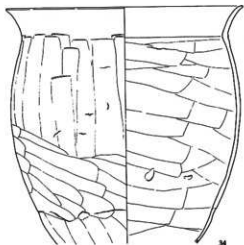


32



33

SJ 54~56



34



35



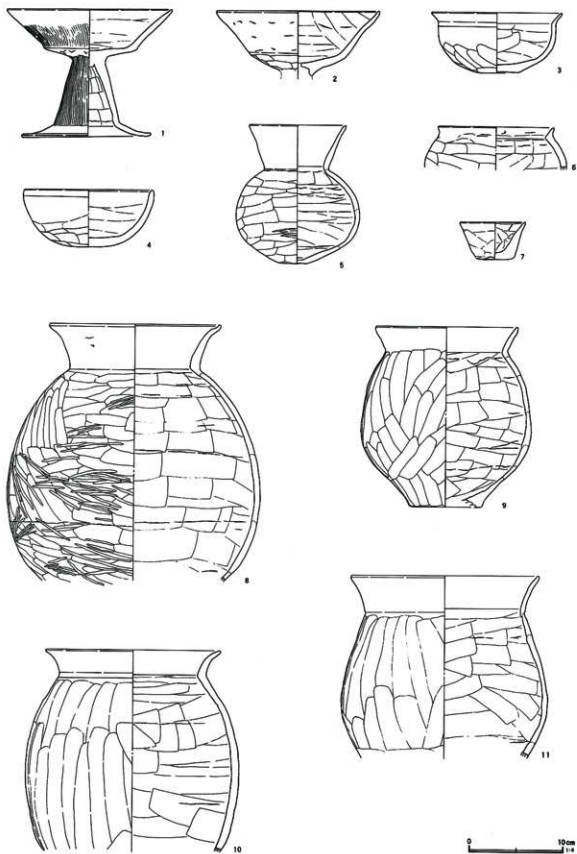
36



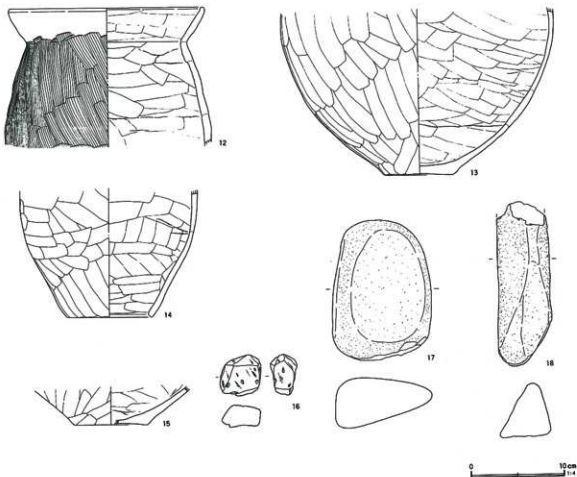
37



第62图 第52·53·54~56号住居跡出土遺物



第63图 第55号住居跡出土遺物(1)



第64図 第55号住居跡出土遺物(2)

第55号住居跡 (第59図)

調査区の西側、Y-45・46グリッドに位置する。第52・54・56号住居跡、第91号土壌、第16号溝跡と重複関係にあり、第52号住居跡、第91号土壌、第16号溝跡より古く、第54・56号住居跡より新しい。

平面形は方形である。規模は長軸4.64m、短軸4.60m、深さ0.13mである。主軸方向は、N-116°-Wを指す。

床面は平坦で、貼り床が施されていた。壁溝はほぼ全周する。ピットはP1・2・3が第51号住居跡と同じように径が小さめで深さがある。位置的には少し壁際に寄りすぎているように思われるが、主柱穴と考えてよいものか。

カマドは南西壁の南寄りに造られていた。燃焼部は壁内に取まり、火床面は床面とほぼ同じ高さである。袖は白色粘土で造られていた。

貯蔵穴はカマドの左側に掘り込まれていた。隅丸方形を呈し、長軸86cm、短軸84cmである。カマド側に一段を有し深さは42cmである。

遺物は、カマド内や住居跡中央部から出土した。土師器の坏・高坏・甕・甔、繩物石と考えられる礫がある。時期は、5世紀後半と考えられる。

第56号住居跡 (第59図)

調査区の西側、Y-45・46、Z-45・46グリッドに位置する。第40・51・52・53・55号住居跡、第90

第42表 第52号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	灰軸 碗	(18.0)	(3.2)	-	E	良好	灰白	5	SJ52P1 つげかけ 東濃 大原
2	灰軸 碗	(16.0)	(2.1)	-	E	良好	灰黄	10	SJ52 つげかけ 東濃 大原
3	灰軸 碗	-	(2.5)	(8.5)	H	良好	灰黄	20	SJ52・53 つげかけ ヘラクリ 東濃 大原
4	ロクロ 高台付碗	14.5	6.3	7.1	AEHJ	不良	にぶい橙	80	SJ52カマド No.11, SJ52・53
5	ロクロ 高台付碗	(14.0)	5.6	7.1	AEHJ	不良	にぶい橙	60	SJ52No.17, SJ52・53
6	須恵器 高台付坏	(13.8)	5.6	6.9	EHJ	良好	灰	60	SJ52・53
7	ロクロ 高台付碗	-	(5.1)	(6.4)	BHJ	不良	にぶい黄橙	25	SJ52・53
8	須恵器 坏	(13.4)	4.2	5.6	EHJ	良好	黄灰	40	SJ52No.15, SJ52・53
9	須恵器 坏	(13.4)	3.8	(5.8)	EHJ	良好	灰	50	SJ52P1i 1 やや歪みあり
10	須恵器 碗	-	(1.6)	7.0	AEHJ	普通	にぶい黄橙	90	SJ52・53
11	須恵器 坏	-	(1.9)	5.8	EHJ	良好	灰	60	SJ52・53
12	須恵器 皿	13.3	2.5	6.0	EHJ	良好	灰	100	SJ53No.3
13	須恵器 皿	(12.8)	1.2	6.0	EHJ	良好	灰	60	SJ52・53
14	ロクロ 皿	(13.0)	(2.2)	-	AH	不良	にぶい橙	15	SJ52・53
15	須恵器 皿	-	(2.1)	(5.8)	E	良好	灰	40	SJ52P1i 1
16	土師器 坏	12.2	4.2	9.0	AEHJ	普通	橙	90	SJ52No.16
17	土師器 坏	(12.0)	3.9	6.2	DEHJ	普通	橙	40	SJ52・53
18	土師器 甕	(11.0)	(4.7)	-	BDE	普通	にぶい橙	20	SJ52・53
19	土師器 甕	(12.2)	(8.8)	-	DEH	普通	にぶい橙	45	SJ52カマド No.4, SJ52・53
20	土師器 甕	(15.0)	(14.1)	-	EH	普通	灰褐	40	SJ52・53
21	土師器 甕	(20.0)	(16.7)	-	AEH	普通	にぶい橙	60	SJ52カマド No.1・2・4・6・7・8
22	土師器 甕	(15.6)	(6.9)	-	DEH	普通	にぶい橙	35	SJ52・53
23	土師器 甕	(19.2)	(16.1)	-	ABDEH	普通	にぶい橙	40	SJ52No.14, SJ52・53
24	土師器 甕	-	(15.2)	4.1	ADEH	良好	にぶい橙	40	SJ52カマド No.9・12, SJ52・53
25	土師器 甕	-	(6.2)	4.1	DH	普通	にぶい黄褐	60	SJ52・53
26	土師器 台付甕	-	(3.9)	(4.6)	BEH	普通	灰褐	80	SJ52カマド No.5 (台部剥離面径)
27	土師器 台付甕	-	(3.4)	7.1	DEHJ	普通	にぶい橙	80	SJ53No.2
28	土師器 台付甕	-	(2.8)	7.8	ABDEH	普通	明褐	60	SJ52・53
29	磁石	現存長(7.7) 幅(5.8) 厚さ(1.1) 重さ(90.0)g					灰黄	80	SJ52・53

第43表 第53号住居跡出土遺物観察表

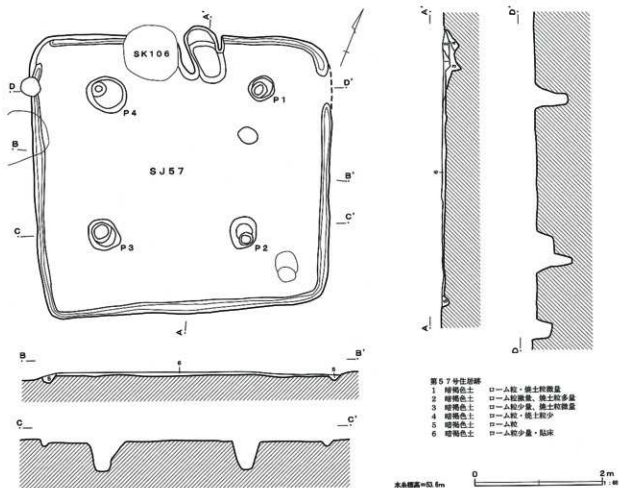
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
30	土師器 坏	(13.0)	(3.3)	-	EH	普通	褐灰	20	SJ52・53
31	土師器 碗	(15.0)	(2.9)	-	AHJ	不良	にぶい橙	20	SJ52・53
32	土師器 高坏	-	(6.5)	-	EH	不良	橙	40	SJ52・53
33	土師器 甕	-	(9.3)	(7.8)	AEHJ	普通	橙	15	SJ52・53

第44表 第54～56号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
34	土師器 甕	(25.0)	(24.7)	-	EHJ	普通	にぶい橙	70	SJ52・53, SJ54～57
35	土師器 甕	-	(2.5)	(7.2)	BDEHJ	普通	にぶい黄褐	50	SJ54・55・56
36	土師器 甕	-	(3.2)	(9.0)	BDEH	普通	にぶい橙	30	SJ54・55・56
37	土師器 甕	-	(4.5)	(6.6)	ABEH	普通	橙	40	SJ54・55・56

第45表 第55号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	(17.5)	13.5	(13.7)	ABDEH	普通	明赤褐	80	SJ55No.1カマド
2	土師器 高坏	17.2	(6.9)	-	ABDEH	普通	明赤褐	100	SJ55No.6カマド
3	土師器 鉢	13.8	6.3	4.6	ABDEH	不良	明赤褐	80	SJ55No.5カマド, SJ54～56
4	土師器 碗	(13.4)	6.0	-	ABDEHJ	普通	明赤褐	80	SJ55No.10, SJ52・53
5	土師器 小型甕	(10.0)	14.5	2.8	DEH	不良	にぶい赤褐	85	SJ55No.7カマド, SJ54～56
6	土師器 鉢	(12.2)	(4.5)	-	ABDEHJ	普通	橙	30	SJ55貯穴
7	土師器 小型鉢	(6.8)	4.0	4.0	ABEH	普通	明褐	90	SJ55貯穴
8	土師器 甕	20.0	(26.8)	-	ABDEHJ	普通	灰褐	60	SJ55No.17・18・カマド, SJ54～56
9	土師器 甕	(15.0)	18.9	(7.4)	ABDEHJ	不良	にぶい黄橙	40	SJ55No.12
10	土師器 甕	18.5	(21.2)	-	ABEHJ	不良	にぶい黄橙	40	SJ55No.13 磨耗著しい
11	土師器 甕	(20.0)	(19.0)	-	ABDEHJ	不良	にぶい橙	30	SJ55No.11・12, SJ54～56 歪み
12	土師器 甕	(10.4)	(14.8)	-	ABDEHJ	不良	橙	10	SJ55No.13
13	土師器 甕	-	(17.5)	7.3	ADEHJ	普通	橙	30	SJ55No.2カマド, SJ54～56
14	土師器 甕	-	(13.4)	9.0	ABDEHJ	普通	にぶい赤褐	70	SJ55No.8
15	土師器 甕	-	(4.0)	7.8	ADEHJ	普通	灰黄褐	80	SJ55No.4カマド
16	軽石	長さ4.4cm 幅4.2cm 厚さ2.9cm 重さ17.3g						100	SJ55貯穴
17	療り石	長さ14.8cm 最大幅10.6cm 厚さ5.3cm 重さ1170.7g						100	SJ55No.14
18	礫物石	現存長(17.3) 幅(5.7) 厚さ(5.7) 重さ(590.1)g						90	SJ55No.9



第65図 第57号住居跡

号土壌と重複関係にあり、本住居跡が最も古いと思われる。床面がほとんど削られており、壁溝で範囲を推定した。

平面形は長方形と推定される。規模は長軸4.80m検出され、短軸は約4mと推定した。主軸方向は、 $N-3^{\circ}-W$ を指す。

床面などの状況はよくわからない。壁溝は南側の途中で分岐している。

カマドや炉は確認されなかった。

遺物はほとんど出土していない。時期は不明であるが、他の遺構との重複状況から5世紀代の遺構と考えておきたい。

第57号住居跡（第65図）

調査区の西側、 $X-46 \cdot 47$ 、 $Y-46 \cdot 47$ グリッドに位置する。第106号土壌と重複関係にあり、これ

より古い。

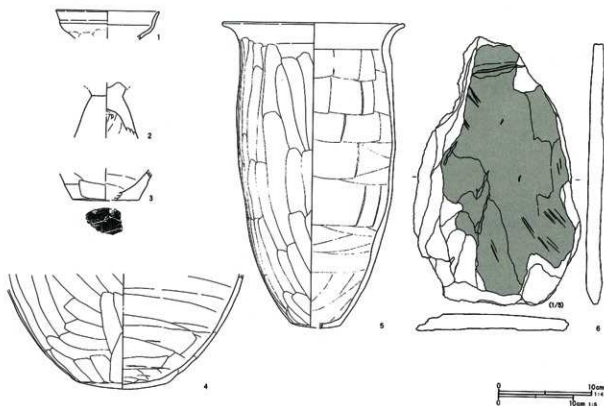
平面形は方形である。規模は東西方向4.72m、南北方向4.44mである。深さは0.06mとごく浅い。主軸方向は、 $N-26^{\circ}-W$ を指す。

床面まで削平されていた。貼床が施され壁溝はほぼ全周する。覆土の状況は不明である。主柱穴は4本確認された。いずれも深さ45cm~55cmあり、底面に当りが見られた。

カマドは北壁中央に設置されていた。壁を少し掘り込んでいる。火床面は床面よりやや低い。袖は両袖とも残存していたが、右袖は遺存状態が悪い。左袖は長さ60cmであった。

遺物は、土師器杯・甕などが出土した。6は片岩であるが、片面のトーンをかけた部分が磨耗して平滑になっている。

時期は6世紀後半と考えられる。



第66図 第57号住居跡出土遺物

第46表 第57号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	(11.0)	(3.0)	-	BEH	普通	にぶい楊	15	カマド
2	土師器 高坏	-	(5.9)	-	ABE	不良	橙	40	くびれ部径3.3cm
3	土師器 甕	-	(3.3)	(7.0)	HJ	普通	橙	25	カマド 底部木業痕か
4	土師器 甕	-	(12.6)	10.0	BDEHJ	普通	にぶい橙	40	No.3
5	土師器 甕	(19.4)	32.4	5.4	ABDEHJ	普通	橙	90	No.2
6	石製品	長さ35.6cm	幅22.2cm	厚さ2.4cm					No.1 表面擦痕 裏面全面剥離

第58号住居跡 (第67図)

調査区の西側、X-46・47、Y-46グリッドに位置する。第44号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が古い。北側は調査区外に出る。

平面形は不明であるが、長方形であろうか。検出されたのは南辺6.26m、西辺4.64mである。深さは0.1mである。主軸方向は、南辺でN-60°-Eを指す。床面は平坦で、貼床が施されていた。壁溝は検出された範囲では廻っている。

カマドは検出されなかった調査区外の東壁あるいは北壁に設置されているものと考えられる。

ピットは2基確認された。P2からは坏が出土し

たが、主柱穴かどうか断定できない。

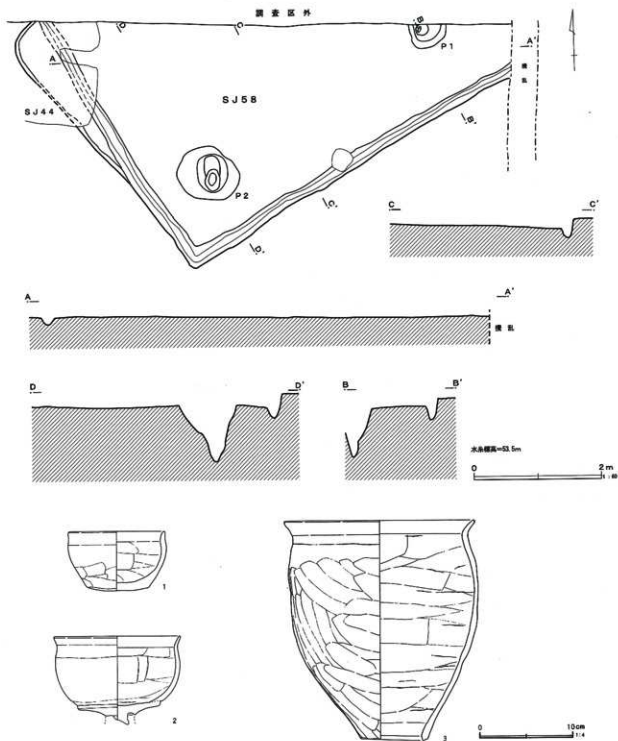
遺物は、土師器の坏・甕が出土している。

時期は5世紀代と思われる。

第59号住居跡 (第68図)

調査区の西側、X-43グリッドに位置する。すぐ西側に河川が迫っており重複する第61号住居跡は浸食を受けている。第60・61号住居跡と重複関係にあり、第60号住居跡より古い。第61号住居跡との新旧関係は不明であるが、本住居跡が新しい可能性が高いと思われる。

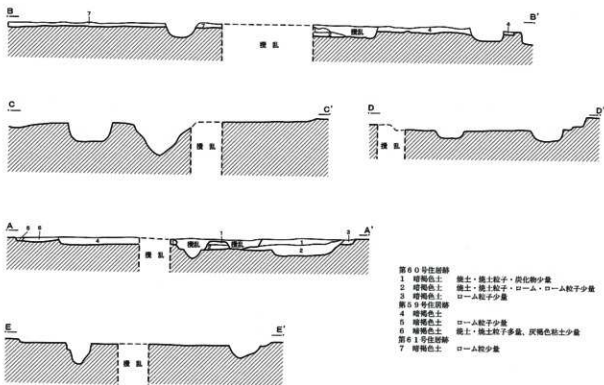
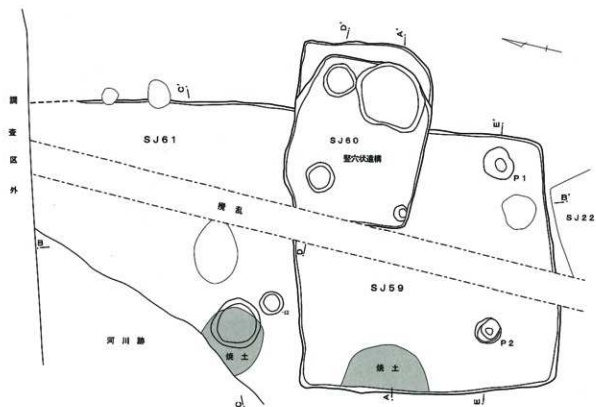
平面形は方形を呈する。規模は東西方向4.16m、



第67図 第58号住居跡・出土遺物

第47表 第58号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 小型鉢	10.4	6.2	6.5	ABDEHJ	不良	明赤褐	80	No.2 内外面やや磨耗する
2	土師器 高坏	13.4	(9.3)	-	ABDEHJ	不良	橙	95	No.3 内外面磨耗著しい
3	土師器 甌	20.2	23.2	6.6	ABDEHJ	不良	橙	80	No.1 歪み・磨耗 口縁楕円形



第68图 第59・60・61号住居跡

SJ 59



1



2



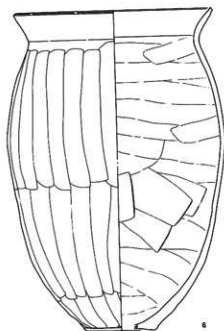
3



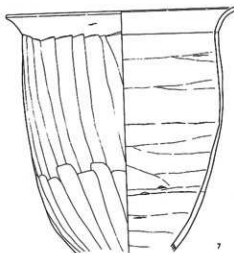
4



5



6



7



8



9



SJ 60



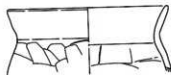
10



11



12



13

SJ 61



14



第69图 第59·60·61号住居跡出土遺物

第48表 第59号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置	
1	土師器 坏	(13.0)	4.3	—	ABH	普通	橙	30		
2	土師器 坏	(10.6)	3.4	—	BEH	普通	にぶい橙	40	釜みあり	
3	土師器 坏	(13.4)	6.2	—	ABDEHU	普通	にぶい橙	50	No.6 釜みあり やや磨耗	
4	土師器 甕	(20.0)	(7.8)	—	ABEH	不良	橙	30	No.4	
5	土師器 甕	—	(8.5)	9.2	ABH	不良	褐灰	60	底部木業痕	
6	土師器 甕	(20.6)	33.4	7.4	ABDHU	不良	灰褐	40		
7	土師器 甕	24.4	(25.2)	—	ABDEHU	不良	橙	70	No.5 磨耗する	
8	すり石	長さ9.2cm 幅7.3cm 厚さ5.2cm 重さ508.1g							100	
9	鉄製品	残存長さ3.1cm 幅0.7cm 厚さ0.25cm 重さ3.3g							破片	刀子 茎?

第49表 第60号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
10	土師器 坏	(13.0)	3.0	(8.8)	AEH	普通	にぶい橙	30	
11	土師器 坏	(13.4)	3.7	—	EH	普通	にぶい褐	60	No.2
12	土師器 坏	(14.0)	(5.8)	—	ABDEHU	普通	にぶい橙	30	
13	土師器 甕	(17.0)	(7.0)	—	ABDHU	普通	にぶい橙	20	No.1

第50表 第61号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
14	土師器 甕	(20.2)	(8.0)	—	ABEHU	普通	にぶい橙	60	No.1

南北方向4.14mである。深さは0.08mでごく浅い。主軸方向は、N-77°-Eを指す。

床面は平坦で、壁溝は検出されなかった。覆土は焼土粒子を多く含み、特に西壁際で焼土の分布がやや密に見られたが、構築物などは確認されなかった。カマドは確認されなかった。

ピットは2基確認されたが柱穴としては断定するに至らなかった。

遺物は、P2の北側付近を中心に、土師器の坏・甕などが出土している。

時期は6世紀後半である。

第60号住居跡 (第68図)

調査区の西側、X-43グリッドに位置する。当初竪穴状遺構としてSXの記号を用いていたが、ここではSJと一緒に取り扱う。第59・61号住居跡と重複関係にあり、最も新しいと思われる。遺構の西辺は攪乱があり、遺構の西半分は別の攪乱によって上面を中心に一部底面近くまで壊されていた。

平面形は長方形である。規模は長軸2.88m、短軸2.16mで、深さは0.18mである。主軸方向はN-87°-Eである。

床面はほぼ平坦である。東側は段を持っていた。

底面には焼土が分布しており、調査したところ径1mほどの土塊状の掘り込みとなった。

カマドは確認されなかった。柱穴と断定できるものも確認されなかった。

遺物は、土師器の坏・甕が出土している。かなり混入があり住居跡に伴うものの判断が困難である。

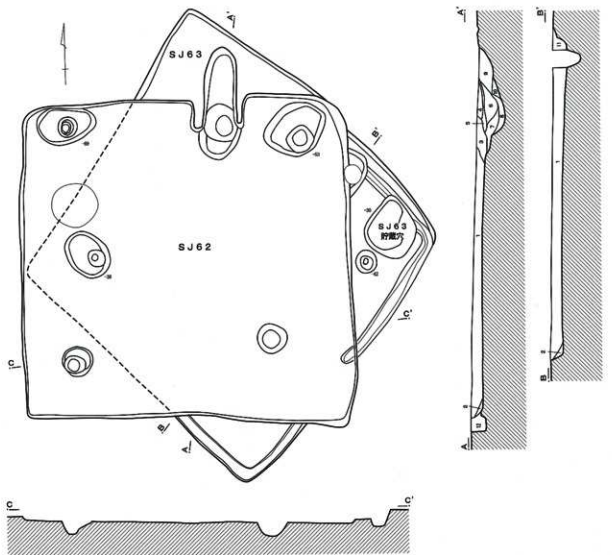
時期は9世紀中葉～後半と思われる。

第61号住居跡 (第68図)

調査区の西側、W-43、X-43グリッドに位置する。第59・60号住居跡と重複関係にあり、一番古いものと思われる。西側は自然の流路によって侵食され、残っていない。

平面形は不明である。検出されたのは東壁が4.2mほどである。ほかの壁は一切検出されなかったが東西方向は4.7m以上である。主軸方向は不明だが、東壁の方向はN-11°-Wである。

床面はほぼ平坦であるが調査していくとどうしても、西側の流路方向に傾斜してしまっただけで、西側の流路の水の影響を受けたためと考えられる鉄分やマンガンの沈着が見られた。西側には焼土の分布が見られ下には土塊状の掘り込みが検出されたが、カマドなどの施設ではなかった。



- 第62号住居跡
- 1 暗褐色土 ローム・ローム粒子多量・ロームブロック・焼土少量
 - 2 暗褐色土 ローム・ローム粒子多量・焼土少量
 - 3 暗褐色土 焼ないし天井崩壊土・暗褐色粘土少量・暗褐色粘土ブロック多量
 - 4 暗褐色土 天井崩壊土・焼土・焼土ブロック・焼土粒子多量・炭化物少量
 - 5 暗褐色土 炭化物・焼土・焼土粒子多量
 - 6 暗褐色土 焼土・焼土粒子・焼土ブロック多量

- 7 暗褐色土 焼土少量・暗褐色粘土・暗褐色粘土粒子多量
 - 8 暗褐色土 掘り方・ローム粒子・焼土少量
 - 9 暗褐色土 掘り方・焼土ブロック・ローム・ロームブロック少量
 - 10 暗褐色土 掘り方・ロームブロック多量・炭化物少量
- 第63号住居跡
- 11 暗褐色土 ローム・ローム粒子・焼土・焼土ブロック多量
 - 12 暗褐色土 焼土・焼土粒子・白色粒子多量

本図縮尺=1/20



第70図 第62・63号住居跡

遺物は、ほとんど出土しておらず土師器の甕が図示できるものであったが混入の可能性もある。

時期は根拠に乏しいが第59号住居跡より古いと考えるなら6世紀代となる。

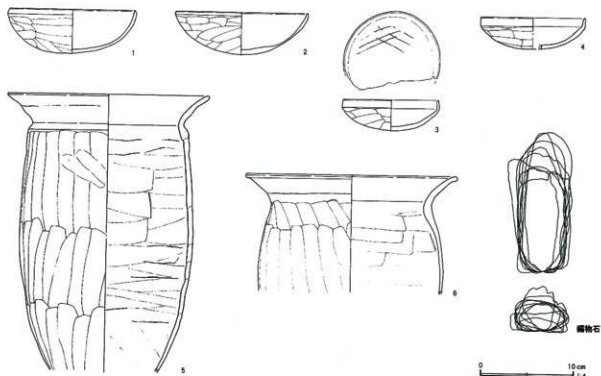
第62号住居跡 (第70図)

調査区の中央やや西寄りのX-47・48、Y-47・48グリッドに位置する。第63号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が新しい。

平面形は方形である。規模は東西方向5.26m、南北方向5.02m、深さ0.10mである。主軸方向は、N-1°-Eを指す。

床面は平坦で、壁溝は検出されなかった。覆土は自然堆積である。ピットは壁際近くに検出されたが主柱穴となるかどうか断定できない。

カマドは北壁のやや東寄りに造られていた。燃焼部は壁を掘り込み突出している。土塊状の掘り方を埋めて、火床面は床面よりやや低くしてある。天井



第71図 第62号住居跡出土遺物

第51表 第62号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	13.4	4.7	—	BDEHJ	不良	橙	80	磨耗著しい
2	土師器 坏	14.0	4.4	—	ABDEH	不良	橙	90	貯穴 磨耗著しい
3	土師器 坏	10.1	3.3	—	DEHJ	普通	にぶい橙	70	No.7 内面に線刻
4	土師器 坏	(11.0)	3.3	—	AEH	不良	橙	30	
5	土師器 甕	(21.4)	(29.2)	—	EHJ	普通	にぶい橙	15	
6	土師器 甕	(22.4)	(12.5)	—	ABDHJ	普通	にぶい褐	20	No.8

第52表 第62号住居跡出土編物石計測表

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	残存	備考・出土位置
7	11.2	4.6	3.0	204.9	片岩	100	No.6
8	10.6	5.1	2.9	244.4	片岩	100	No.6
9	14.6	6.1	3.3	419.1	砂岩	100	No.6
10	12.6	5.7	4.6	441.7	片岩	100	No.6
11	10.7	4.3	3.7	273.2	砂岩	100	No.6

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	残存	備考・出土位置
12	13.1	5.0	1.5	150.5	片岩	100	No.2
13	11.9	6.7	2.3	246.5	片岩	100	No.2
14	14.5	4.9	13.3	296.9	砂岩	100	No.3
15	13.8	4.9	2.9	316.6	砂岩	100	No.1

部の崩落土も見られた。袖は両側で確認された。白色粘土を使用して構築されている。

遺物は、土師器の坏・甕が出土している。土器のほかには編物石と思われる棒状の礫が9点出土した。

第71図に輪郭を重ね図で示した。

時期は7世紀後半である。

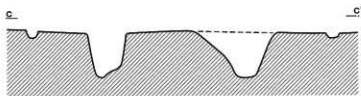
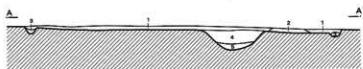
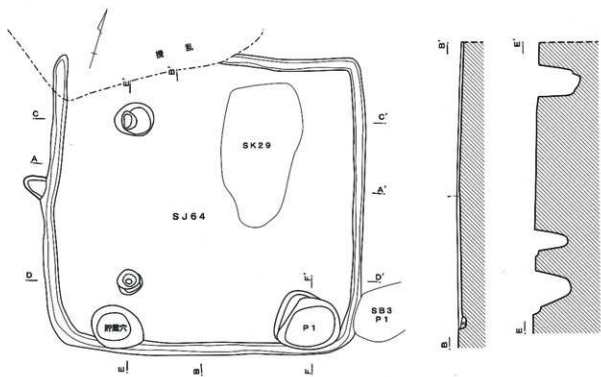
第63号住居跡 (第70図)

調査区の中央やや西寄り、X-47・48、Y-47・

48グリッドに位置する。第62号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が古い。遺構の大部分を第62号住居跡によって削平されており、貯蔵穴のある東角と、北、南の角を残すだけである。

平面形は方形で北東辺が5.32m、南東辺は5.24mである。深さは0.08mとごく浅い。主軸方向は、N-43°-Eである。覆土の状況はよくわからない。

床面は残存面積が少なくよくわからないが、壁溝は北側の隅以外は廻っていたようである。

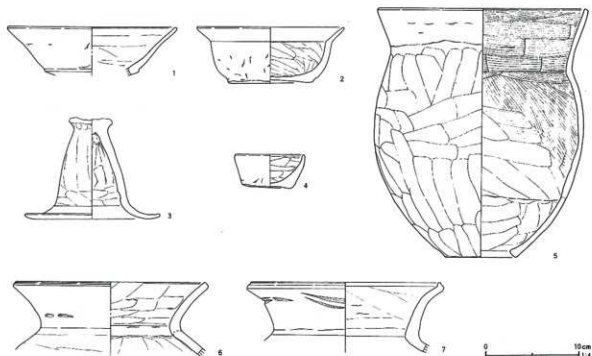


- 第64号住居跡
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土・炭化物少量
 - 2 暗黄褐色土 ロームブロック少量
 - 3 暗黄褐色土 ローム粒子多量
 - 4 暗褐色土 焼土・焼土粒子多量、ローム・ローム粒子多量、炭化物少量
 - 5 暗褐色土 ローム・ロームブロック多量、炭化物少量

水平縮尺=1/50



第72図 第64号住居跡



第73図 第64号住居跡出土遺物

第53表 第64号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	(18.0)	(5.1)	—	ADEHJ	普通	にぶい赤褐	40	貯穴 No.4
2	土師器 鉢	(15.6)	5.8	9.0	ABDEH	普通	明赤褐	80	貯穴 No.9
3	土師器 高坏	—	(10.6)	14.4	ADEHJ	普通	明赤褐	90	貯穴 No.6
4	土師器 小型鉢	7.4	3.6	5.3	ABDEHJ	普通	にぶい赤褐	90	No.2
5	土師器 瓶	22.4	26.3	7.5	ABEHJ	普通	明褐	100	貯穴 No.7 外面やや磨耗
6	土師器 甕	(20.0)	(7.8)	—	ABDEHJ	普通	橙	90	貯穴 No.8
7	土師器 甕	20.0	(7.3)	—	ABDEHJ	普通	明赤褐	100	貯穴 No.5

カマドは北東の壁に造られ、やや東に寄っていた。燃焼部は壁内に収まるようである。大半が第62号住居跡によって壊されていたため、これ以上のことは不明である。袖も検出されなかった。

貯蔵穴は、東の隅にころうじて残っていた。カマドの右側に位置する。大きさは100cm×90cmほどの隅丸方形で深さは53cmであった。

遺物は皆無である。第62号住居跡との重複関係から7世紀代の遺構と考えられる。

第64号住居跡 (第72図)

調査区の中央、Y-48・49グリッドに位置する。北西の角を擾乱によって壊されている。第3号掘立柱建物跡、第29号土塼と重複関係にある。前者より

古く、後者より新しい。

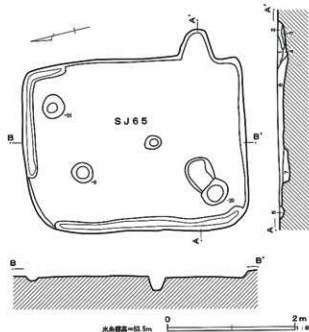
平面形は方形である。規模は長軸5.10m、短軸4.78mである。深さは0.08mとごく浅い。主軸方向は、北辺で、N-71°-Eを指す。

床面は平坦で壁溝が廻る。柱穴は2基検出されたが残りの2基は検出できなかった。カマドや炉は確認されなかった。西壁の中央部にわずかに突出する部分がカマドかと考えたが、焼土や白色粘土などは確認されず、断定できなかった。

貯蔵穴と考えられる掘り込みが、南西隅部分に検出された。ほぼ完形の甕、甕の口縁部2個体などが入っていた。

遺物はこのほかに高坏・鉢が出土した。

時期は5世紀中葉～後半と考えられる。



- 第65号住居跡
- | | | | |
|--------|------------|--------|---------------|
| 1 粘褐色土 | ローム粉多量 | 4 黒褐色土 | ローム粉少量 |
| 2 黒褐色土 | ローム粉・灰土粉少量 | 5 黒褐色土 | ローム粉少量 |
| 3 黒褐色土 | 地土ブロック多量 | 6 黒褐色土 | ローム粉・土粒・パミス隣量 |
| | | 7 黒褐色土 | ローム粉多量 |



0 5cm
1:1

第74図 第65号住居跡・出土遺物

第54表 第65号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	鉄製品	残存長6.6cm	断面0.9×0.6cm	重さ43.7g	-	-	-	-	角棒状不明品

第65号住居跡 (第74図)

調査区の中央、Y-48グリッドに位置する。他の遺構との重複はないが、すぐ北側に第64号住居跡、南には第71号住居跡が接するように存在する。

平面形は長方形で、規模は長軸3.56m、短軸2.72m、深さ0.05mでごく浅い。主軸方向は、N-102°-Eを指す。

床面は平坦で、全体に貼り床が施されていた。壁溝は西壁際、北東隅に確認されたが、他は掘り込まれていなかった。ピットは複数確認されたが柱穴と断定できるものはなかった。カマドは北東壁の南寄りに造られていた。燃焼部は浅い皿状に掘り込まれ、壁から突出している。火床面は床面より下位で、その上に天井部の崩落土が見られる。袖は確認されなかった。遺物は角棒状の鉄製品が1点出土した。

時期は不明である。

第66号住居跡 (第75図)

調査区の中央、Y-48・Z-48グリッドに位置する。第68号住居跡と重複関係にあり、本住居跡のほうが古い。住居跡の大半を第68号住居跡によって壊されている。

平面形は方形と推定される。規模は北辺が4.02m、東辺は2.1m残存していた。深さは0.04mと極々浅い。主軸方向は、北壁でN-81°-Wを指す。

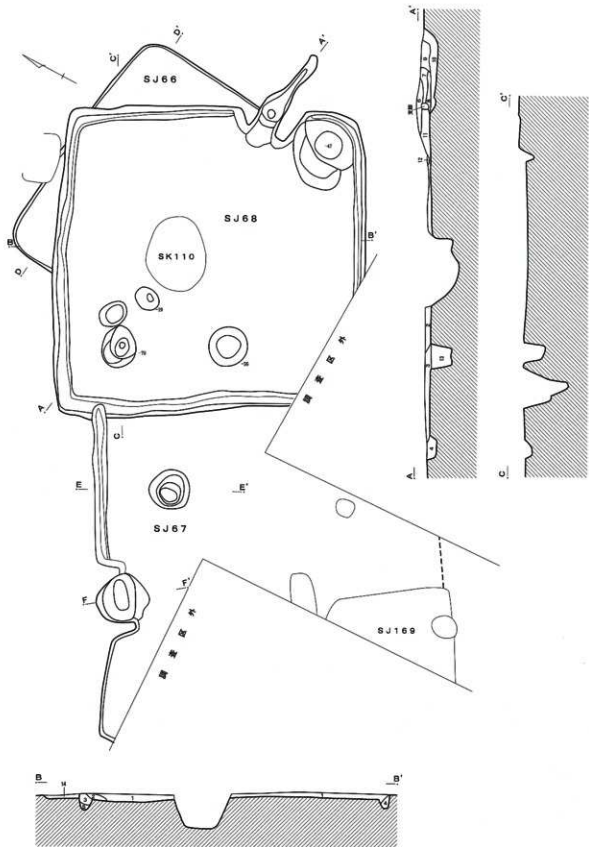
床面、覆土の状況は不明である。

カマドや炉は検出されなかった。柱穴と考えられるものは確認していない。

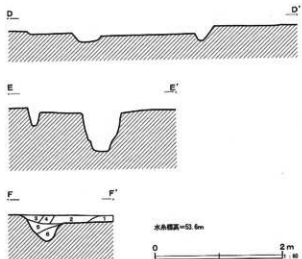
遺物は皆無である。時期は不明であるが、重複関係や住居跡の特徴から5世紀代の住居ではないかと考えたい。

第67号住居跡 (第75図)

調査区の中央、Z-47・48グリッドに位置する。第68号住居跡と重複関係にあり、本住居跡の方が新しい。遺構の南側の大半は調査区外に出る。



第75图 第66·67·68号住居跡(1)

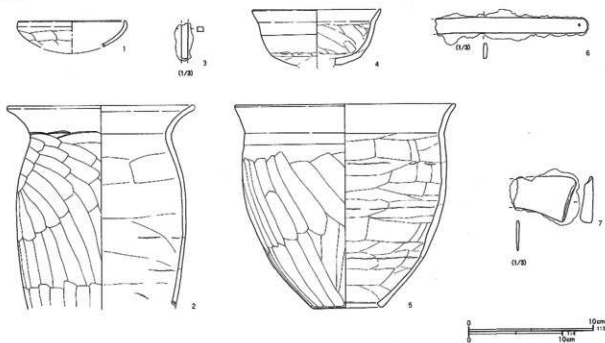


第76図 第66・67・68号住居跡(2)

- 第65号住居跡
- 1 黒褐色土 ローム粒微量
 - 2 暗褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量
 - 3 黒褐色土 ローム粒微量
 - 4 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック少量
 - 5 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック微量
- 第66号住居跡カマド
- 6 暗褐色土 砂質、焼土・焼土粒子少量
 - 7 暗褐色土 天井落土・焼土、焼土ブロック・炭化物少量
 - 8 暗褐色土 炭化物・焼土粒子・焼土ブロック多量
 - 9 暗褐色土 天井落土、焼土・焼土ブロック少量
 - 10 暗褐色土 焼土・焼土ブロック少量、焼土粒子多量
 - 11 暗褐色土 炭化物・炭化材・焼土・焼土粒子多量
 - 12 暗褐色土 焼土
 - 13 黒褐色土 ローム粒
 - 14 暗褐色土 ローム粒
- 第67号住居跡カマド
- 1 暗褐色土 ローム、ローム粒子・焼土粒子少量
 - 2 暗褐色土 ローム、ローム粒子、ロームブロック・焼土・焼土粒子・炭化物多量
 - 3 暗褐色土 焼土・焼土粒子多量、炭褐色粒土・炭化物少量
 - 4 暗褐色土 焼土・焼土ブロック少量、天井落土
 - 5 褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量、焼土方礫土
 - 6 暗褐色土 ローム、ロームブロック多量、焼土方礫土

SJ 67

SJ 68



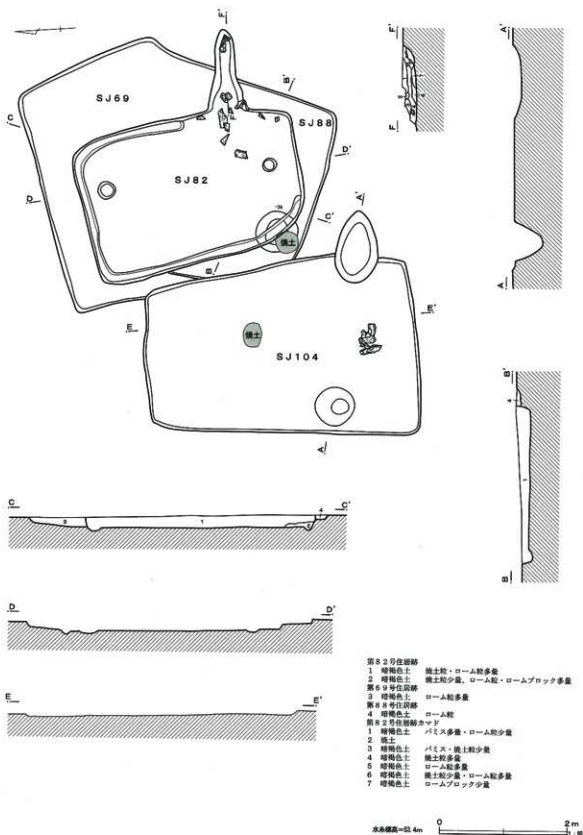
第77図 第67・68号住居跡出土遺物

第55表 第67号住居跡出土遺物観察表

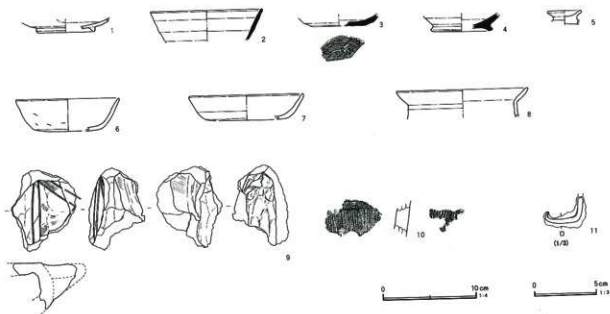
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	11.4	(2.8)	—	BDH	普通	橙	20	やや歪みあり
2	土師器 甕	(20.0)	(21.4)	—	BDEH	普通	にょい揚	30	—
3	鉄製品	残存長2.8cm	断面0.5×0.3cm	重さ5.5g	—	—	—	—	棒状不明品

第56表 第68号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
4	土師器 碗	13.6	(5.9)	—	ABDEH	普通	明赤褐	90	No.4カマド
5	土師器 甕	23.2	21.5	7.5	ABEH	普通	明赤褐	75	No.6
6	鉄製品	残存長12.1cm	幅1.2cm	厚さ0.3cm	重さ34.6g	—	—	—	貯穴 不明品
7	鉄製品	残存長5.0cm	最大幅3.6cm	厚さ0.2cm	重さ32.5g	—	—	—	鎌?



第78図 第69・82・88・104号住居跡



第79図 第82号住居跡出土遺物

第57表 第82号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	灰輪 皿	—	(1.4)	(6.0)	E	良好	灰白	15	つけがけ ヘラキリ 東透江 H-72
2	須恵器 坏	(12.0)	(3.2)	—	BDEH	普通	黄灰	15	
3	須恵器 坏	—	(1.3)	(6.3)	HJ	良好	黄灰	20	
4	須恵器 高台付碗	—	(1.9)	(6.6)	EHJ	普通	灰	20	
5	須恵器 蓋	—	(1.5)	—	AEH	普通	にぶい橙	40	酸化塩焼成 つまみ径3.6cm
6	土師器 坏	(11.0)	3.4	(7.0)	BDEH	普通	橙	15	磨耗著しい
7	土師器 坏	(12.0)	2.7	(9.0)	BEH	普通	にぶい黄橙	10	
8	土師器 甕	(14.0)	(3.0)	—	BDEH	普通	にぶい赤褐	10	
9	形象埴輪	長(8.5)cm 幅5.8cm 厚3.2cm	—	—	ADEH	普通	橙	破片	扇形 沈線(三角文)施文
10	埴輪	—	—	—	BDEHJ	普通	橙	破片	
11	鉄製品	長さ(2.1) + 2.9 + 0.7cm	—	—	—	断面一辺0.3cm	—	重さ9.0g	破片 釘



第80図 第104号住居跡出土遺物

第58表 第104号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	埴輪	—	—	—	BDEH	普通	にぶい橙	破片	
2	土師	長さ2.8cm	直径1.0cm	—	ADEH	普通	にぶい橙	100	孔径0.4cm 重さ3.0g

平面形は長方形と推定される。規模は長軸5.38m 検出できた。短軸は3.1m位と推定される。深さ0.06 mでごく浅い。主軸方向は、N-33°-Wとなる。

床面は平坦で、壁溝はカマド右側に認められたが、左側には検出されなかった。ピットはカマドの手前右に検出されたが他は調査区外のため主柱穴となる

かどうかはつきりしない。

カマドは北壁のやや西寄りに造られていた。燃焼部は壁内に収まる。土壌状の掘り方を埋めて火床面は床面と同じ高さになっている。袖は両袖とも検出されたが残存状態がよくなく短かった。

遺物は土師器の坏・甕、棒状の鉄製品が出土して

いる。

時期は7世紀後半である。

第68号住居跡（第75図）

調査区の北側、Y-48、Z-48グリッドに位置する。第66・67号住居跡、第110号土壌と重複関係にあり、第67号住居跡・第110号土壌より古く、第66号住居跡より新しいと思われる。南角は調査区外に出る。

平面形は方形である。規模は長軸4.98m、短軸4.90mである。主軸方向は、N-63°-Eを指す。

床面は緩い起伏があり、北から東側にかけて少し下がっている。壁溝は全周していた。ピットはカマドの反対側の西隅に見られたが柱穴は特定できなかった。

カマドは東壁の南寄りに造られていた。検出時には煙道の角度から第66号住居跡のカマドかと思われるが、袖の残り方や重複の状況から本住居跡のものと判明した。燃烧部は壁外まで掘り込まれ煙道は斜めに延びていた。煙道の長さは約90cmであった。火床面は床面と同じか、やや下がっている。燃烧部中央には支脚が残されており、天井部の崩落土もはっきりと認識できた。袖は白色粘土で造られていた。

遺物は、土師器の脚付碗・甌が出土した。金属製品では鎌と用途不明の棒状（板状）品が出土した。時期は6世紀前半と考えられる。

第69号住居跡（第78図）

調査区の中央、Y-51グリッドに位置する。第82・88・104号住居跡と重複関係にある。第82・104号住居跡より古い。第88号住居跡との新旧関係はわからなかった。

平面形は基本的には長方形であるが、北辺より南辺が広がっている。規模は長軸3.90mで、短軸は2.4mほどである。深さは0.12mである。主軸方向は、N-76°-Eを指す。

床面は平坦で、壁溝やピットは検出されなかった。

カマドや炉も検出されなかった。

遺物は出土しなかった。時期は不明である。

第70号住居跡（第81図）

調査区の中央、X-49グリッドに位置する。第74号住居跡、第4号掘立柱建物跡と重複関係にあり、本住居跡が最も古い。北側は調査区外に出る。

平面形は長方形と推定される。規模は長軸4.00mで、短軸は3.2mまで検出された。深さは0.10mである。主軸方向は、N-80°-Eを指す。

床面は平坦で、壁溝はカマドの左側を除いて廻っている。柱穴は検出されなかったが、カマドの反対側の壁際にピットが1基検出された。覆土は自然堆積と思われる。

カマドは東壁のやや南寄りに設置されていた。燃烧部は壁を掘り込み外側に大きく突出している。掘り方を粘土ブロックで埋めた後、床面よりやや低く火床面を設定している。天井部は白色粘土を用いて構築しており、崩落土が顕著に認められた。袖は遺存していなかった。

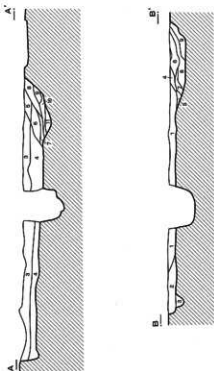
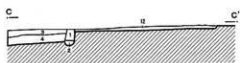
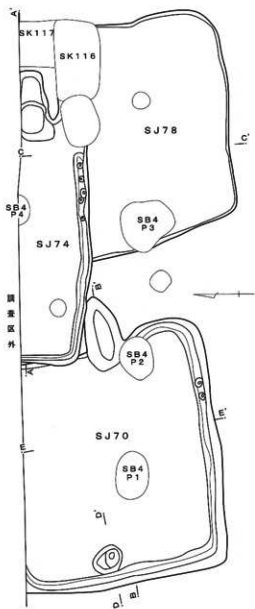
遺物は土師器の坏が出土した。時期は、7世紀後半～8世紀初頭と考えられる。

第71号住居跡（第83図）

調査区の中央部、Y-48・49、Z-48・49グリッドに位置する。第72・91号住居跡、第3号掘立柱建物跡と重複関係にあり、第72号住居跡、第3号掘立柱建物跡より古い。第91号住居跡との新旧関係はわからなかった。

平面形は長方形ではないと思われる。非常に浅く、壁溝で平面を確定したため、壁溝の切れる南側は確定できなかった。北辺に比べ南辺がやや開くようである。規模は長軸5.56m、短軸は4.76mまでしかわからない。主軸方向はN-63°-Eを指す。

床面は検出した時点で貼り床が出ている状態であった。壁溝は南辺を除いて廻っている。ピットは床面で複数確認されたが新しいものもあり本住居跡に



第70号住居跡

- 1 黒褐色土 ローム状礫層
- 2 黒褐色土 ローム状少量
- 3 黒褐色土 ローム状・ロームブロック少量
- 4 暗褐色土 粘土粒・粘土粒少量
- 5 白褐色土 粘質土・粘土状礫層
- 6 白褐色土 粘質土・粘土状少量 部分マド天井部
- 7 暗褐色土 灰化層・粘土状礫層
- 8 黒褐色土 粘土ブロック多量・粘土粒少量・ロームブロック礫層
- 9 暗白褐色土 粘質土・粘土粒・ロームブロック礫層

第74・78号住居跡

- 1 赤褐色土 ローム状少量・パリス礫層
- 2 赤褐色土 ローム状・ロームブロック少量
- 3 黒褐色土 ローム状・粘土粒・パリス礫層
- 4 黒褐色土 ローム状少量・粘土粒・パリス礫層
- 5 黒褐色土 ローム状少量
- 6 赤褐色土 ローム状・粘土粒少量
- 7 赤褐色土 ローム状少量・粘土粒多量
- 8 赤褐色土 ローム状少量・粘土粒礫層
- 9 赤褐色土 ローム状・ロームブロック少量・粘土粒礫層
- 10 暗褐色土 ローム状少量・ロームブロック礫層 (S77)
- 11 黒褐色土 ローム状・ロームブロック少量・粘土粒礫層
- 12 暗褐色土 ローム状少量・ロームブロック礫層

水糸標高=53.6m

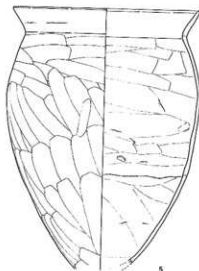


第81図 第70・74・78号住居跡

SJ 70



SJ 74



SJ 78



第82図 第70・74・78号住居跡出土遺物

第59表 第70号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	(14.0)	3.5	(10.7)	ABDEH	普通	にぶい橙	15	
2	土師器 坏	(15.0)	(2.3)	-	ADEH	普通	にぶい橙	25	

第60表 第74号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
3	須恵器 蓋	-	(2.4)	-	EJH	良好	灰白	80	つまみ完存 直径3.4cm
4	土師器 坏	14.4	4.8	-	ABDHI	普通	にぶい橙	60	No.4
5	土師器 甕	19.8	(27.5)	-	ABDEHI	普通	橙	85	カマド No.1・2・3 貯穴
6	土師器 甕	(19.0)	(5.9)	-	DEHI	普通	橙	10	貯穴
7	土師器 甕	-	(7.0)	7.0	ADEHI	普通	にぶい黄褐	30	No.6

第61表 第78号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
8	土師器 高坏	(16.0)	(4.5)	-	AEHI	普通	にぶい赤褐	10	

確實に伴うものはよくわからなかった。カマドや炉は検出されなかった。住居跡北側に貯蔵穴と思われる土塊状の掘り込みが検出された。中からは高坏や坏が出土した。

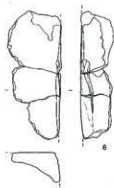
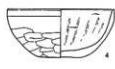
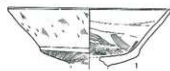
遺物は、土師器の坏・高坏、用途不明の金属製品が出土した。時期は5世紀である。

第72号住居跡 (第83図)

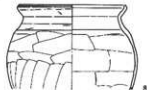
調査区の中央部、Z-48・49グリッドに位置する。第71・91号住居跡と重複関係にあり、最も新しい。南側約半分は調査区外に出ている。

平面形は不明であるが長方形であろうか。規模は長軸約4mと考えられ、短軸は2.3m検出できた。

SJ 71



SJ 72



0 5cm

0 10cm

第84図 第71・72号住居跡出土遺物

第62表 第71号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	17.2	(6.1)	—	BEH	普通	にぶい橙	100	貯穴 No.2
2	土師器 高坏	16.0	(6.5)	—	ABEH	普通	橙	100	貯穴 No.1
3	土師器 碗	12.3	6.6	—	ABDEH	普通	にぶい赤褐	90	No.3
4	土師器 坏	11.4	5.1	4.5	ADEHU	普通	橙	95	貯穴 No.7 内面ヘラミガキ
5	土師器 坏	12.8	4.6	8.8	ABDEHU	普通	橙	100	貯穴 No.4
6	不明土製品	残存長13.6cm	幅5.0cm	—	E	普通	にぶい赤褐	破片	貯穴 No.6 厚さ3.1cm
7	鉄製品	残存長5.8cm	最大幅2.8cm	厚さ0.4cm	—	—	重さ25.2g	破片	不明品

第63表 第72号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
8	土師器 甕	(11.4)	(9.0)	—	BDEHU	良好	にぶい赤褐	85	カマド No.1
9	土師器 甕	(12.0)	(3.5)	—	BEH	普通	橙	20	

深さは0.1mである。主軸方向はN-89°-Eを指す。

床面は平坦であるが、カマドの前がやや下がっていた。覆土は自然堆積と思われる。壁溝は検出されなかった。ピットは北隅に1基検出されたが、確実に本住居跡に伴うかどうか不明である。

カマドは東壁に造られていた。燃焼部は土壌状に掘り込まれ、壁から突出している。火床面は床面と同じ高さである。軸は左軸が確認できた。灰白色粘土を使っている。

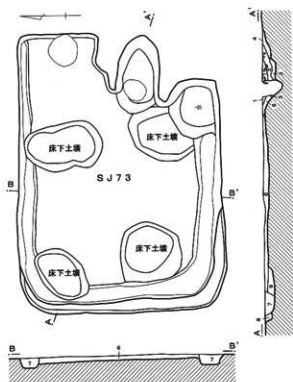
遺物は土師器の甕が出土したのみである。時期を判断できる遺物に乏しいが、甕は器壁が薄くしっかり作られていることから9世紀と考えておきたい。

第73号住居跡 (第85図)

調査区の中央、Z-49・50グリッドに位置する。他の遺構との直接の重複はないが、すぐ東には第99・100号住居跡、西には第71・91号住居跡があり、北側には第3号掘立柱建物跡がある。

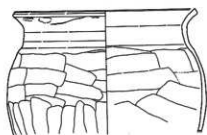
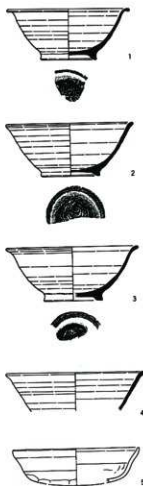
平面形は長方形である。規模は長軸4.42m、短軸3.30mである。深さは0.04mでごく浅い。主軸方向は、N-89°-Eを指す。

床面はやや起伏があるが平坦である。かなり削平されているため貼床面に達している。壁溝はカマドのある東壁を除いて廻っている。西と南側は幅広である。また、西及び南側の西半分は壁との間に段が



第73号住居跡
 1 白褐色土 粘土質土・黄土状少量
 2 黄褐色土 粘土質少量・黄土状少量
 3 黄褐色土 粘土質・黄土状少量
 4 黄褐色土 粘土質少量・黄土状少量
 5 黄褐色土 粘土質・黄土状少量
 6 黄褐色土 ローム状少量・粘土質・パリス軟泥 (55%)
 7 黄褐色土 ローム状・ロームブロック少量
 8 褐色土 ローム状少量

水準距離=33.6m 0 2m

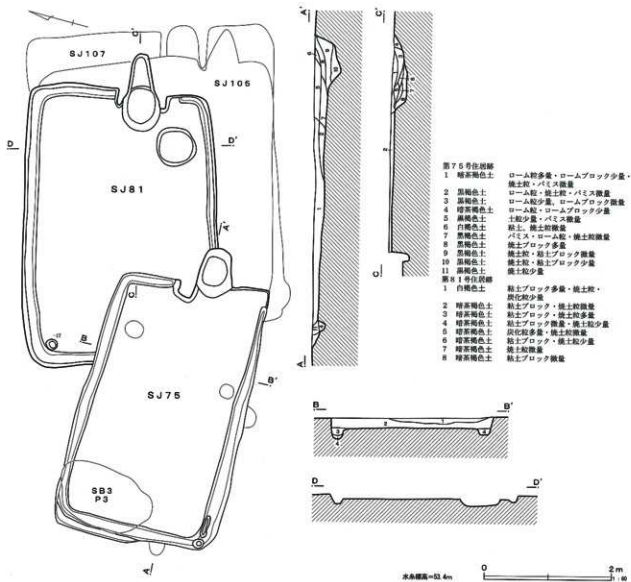


0 10cm 0 5cm

第85図 第73号住居跡・出土遺物

第64表 第73号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 高台付碗	(13.0)	5.4	(6.0)	EHJ	良好	灰黄褐	15	
2	須恵器 高台付碗	(13.4)	5.5	(6.2)	HJ	良好	灰黄褐	40	
3	須恵器 高台付碗	(14.0)	5.6	(6.2)	EHJ	良好	褐灰	40	
4	須恵器 碗	(14.6)	(4.0)	—	EHJ	良好	灰黄褐	40	やや歪みあり
5	土師器 坏	(13.4)	(3.6)	—	BDEH	普通	橙	30	カマド
6	土師器 甕	(19.0)	(13.0)	—	BDEHJ	普通	橙	15	カマド No.1
7	土師器 甕	(19.6)	(8.0)	—	DEHJ	普通	橙	20	カマド No.1
8	石製紡錘車	長径4.0cm	短径3.3cm	厚さ1.3cm	孔径0.8cm		灰	95	重さ32.1g



第86図 第75・81号住居跡

見られる。ピットは検出されなかった。床下土壌が4基検出された。いずれも楕円形でロームブロックを多量に含む土で埋め戻されていた。

カマドは東壁のやや南寄りに造られていた。カマド左側は住居跡の壁内に収まるが、右側は住居跡の南東の角が、カマド左側の北壁の延長まで達していないため壁の外側に出ているような格好になる。火床面は床面より下がっている。袖は白色粘土を用いており、両側で確認されたが、前述のような状況から左袖は長く、右袖は短くなっている。カマド右脇

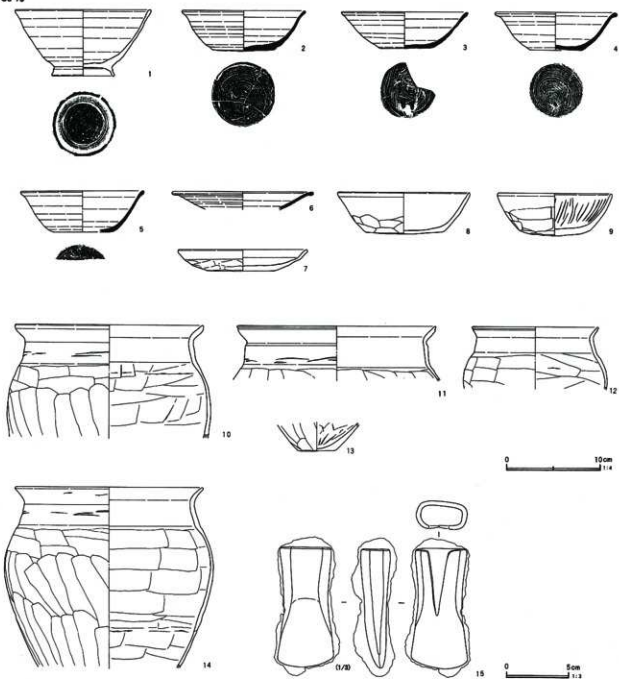
の空間は、はたして屋内だったのか、屋外だったのか調査時にはそこまで気が廻らず、また遺構の残りもよくなかったため追求することができなかった。

カマド右側に貯蔵穴と思われる掘り込みが検出された。住居跡の壁に接して掘り込んでいる。隅丸方形を意識していると思われ、大きさは80cm×75cm、深さは21cmであった。

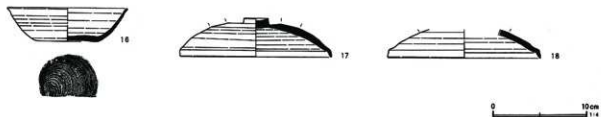
遺物は、カマドから土師器の坏・甕が出土している。他に須恵器高台付碗、石製紡錘車がある。

時期は9世紀後半である。

SJ 75



SJ 81



第87图 第75・81号住居跡出土遺物

第65表 第75号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	ロクロ	高台付碗	(14.4)	7.0	6.5	AEHJ	不良	70	カマド No.4・No.6
2	須恵器	坏	(13.2)	4.2	6.7	HJ	良好	70	
3	須恵器	坏	13.4	3.9	5.7	HJ	良好	70	
4	須恵器	坏	(13.0)	4.0	(5.4)	HJ	良好	85	
5	須恵器	坏	(13.0)	4.3	(6.5)	EH	良好	30	
6	須恵器	皿	(15.0)	(1.9)	—	EHJ	良好	30	カマド No.9
7	土師器	皿	13.7	2.3	7.1	BEH	普通	95	
8	土師器	坏	14.0	4.3	8.2	ABEH	良好	90	カマド No.15
9	土師器	坏	(12.0)	3.5	(7.5)	ABEH	普通	40	内面暗文
10	土師器	甕	(20.0)	(11.8)	—	ABDEH	普通	60	No.17~No.19
11	土師器	甕	(21.0)	(5.8)	—	ABDEH	普通	50	カマド No.11, No.20
12	土師器	甕	13.3	(6.5)	—	BH	普通	50	カマド No.10
13	土師器	甕	—	(2.9)	4.0	ABDEH	普通	70	No.16
14	土師器	甕	(20.0)	(18.9)	—	ABEHJ	普通	40	カマド No.1・No.2
15	鉄製品		全長9.4cm	刃部幅4.4cm	ソケット部幅4.0cm		厚さ2.3cm	100	鉄斧 重さ227.1g

第66表 第81号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
16	須恵器	坏	(12.8)	3.5	6.3	HJ	良好	40	
17	須恵器	蓋	(16.0)	4.0	—	BEHJ	不良	90	No.2 つまみ直径2.6cm
18	須恵器	蓋	(16.0)	3.0	—	HJ	良好	25	No.2

第74号住居跡 (第81図)

調査区の中央、X-49・50グリッドに位置する。第70・78号住居跡、第116号土壌、第4号掘立柱建物跡と重複関係にあり、第116号土壌、第4号掘立柱建物跡より古く、その他の遺構より新しい。住居跡の北側ほとんどは調査区外に出ている。

平面形は方形になるか長方形か不明である。検出されたのは南辺であるが、これも南東の角が第116号土壌と重複している。南辺は4.2m~4.6mと推定される。西辺は約1m検出された。深さは0.2mである。主軸方向は、N-90°-Eを指す。

床面はほぼ平坦で壁溝が廻る。覆土は自然堆積である。

カマドは東壁の南寄りに造られていた。燃焼部は土壌状に掘り込まれているが、これが壁を掘り込んで突出しているのかわからない。土壌状の掘り方を埋めて火床面を床面とほぼ同じ高さにしてある。袖は右袖が確認された。灰白色粘土を使って造られていた。左袖は調査区外である。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の蓋が出土している。須恵器蓋は混入の可能性はある。

時期は8世紀前半と推定される。

第75号住居跡 (第86図)

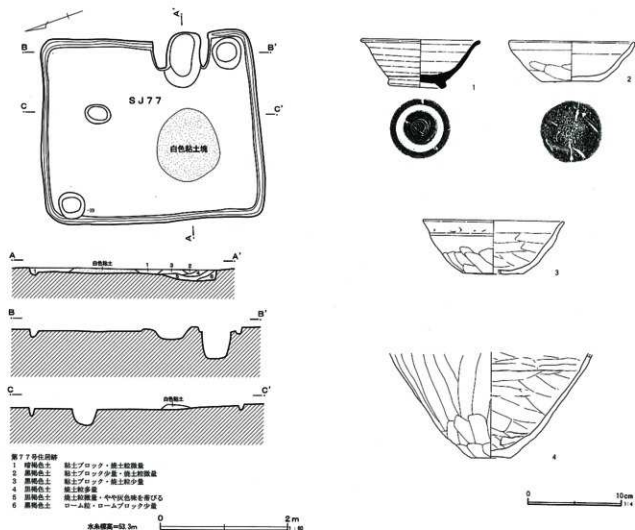
調査区の中央、Y-50グリッドに位置する。第81・105・107号住居跡、第3号掘立柱建物跡と重複関係にあり、本住居跡が最も新しい。

平面形は長方形である。規模は長軸4.20m、短軸2.66mである。深さは0.10mである。主軸方向は、N-91°-Eとなる。

床面はカマドのある東に向かってわずかに傾斜している。壁溝はカマドの右側を除いてほぼ全周している。ビットで本住居跡に伴うものは検出されなかった。覆土は自然堆積と考えられる。

カマドは東壁に造られていた。燃焼部は壁を掘り込んで外側に張り出している。土壌状の掘り方を埋めて火床面は床面よりやや高くしていたようである。火床面の焼土の上には天井部に使われていたと見られる白色粘土が崩壊しているのが観察された。袖は左袖だけが残存しており、右袖は確認されなかった。白色粘土で造られており、左袖の長さは約30cmであった。

遺物はカマドを中心に出土した。土師器の坏・甕、須恵器の坏があり、カマド以外では鉄斧が出土している。時期は9世紀後半である。



第89図 第77号住居跡・出土遺物

第68表 第77号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 高台付杯	12.6	5.2	6.2	DEHU	良好	黄灰	95	貯蔵穴 No.1
2	土師器 杯	13.2	—	6.0	BDHU	普通	橙	80	貯蔵穴 No.2
3	土師器 杯	(15.0)	5.6	6.4	BDEH	普通	灰褐	45	
4	土師器 甕	—	(11.1)	(4.2)	BHU	普通	褐灰	30	

られている。袖は両側で確認され、白色粘土で造られていた。

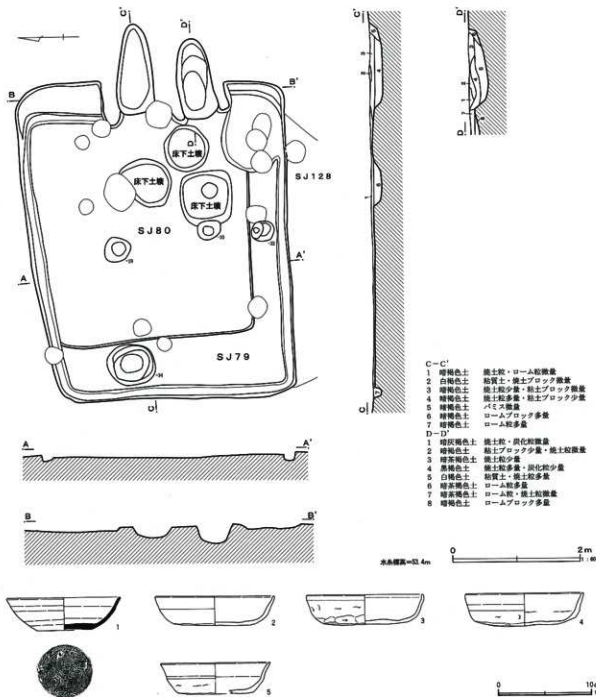
貯蔵穴はカマドの右側、住居跡の南隅に掘り込まれていた。カマド袖と壁との間にちょうど収まっている。大きさは約50cmのほぼ円形で深さは42cmである。

遺物は、土師器の杯・甕、須恵器の高台付杯が出土している。

時期は10世紀前半である。

第78号住居跡 (第81図)

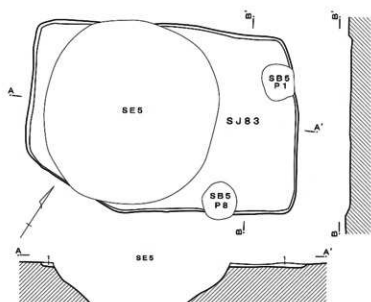
調査区の中央、X-49・50グリッドに位置する。第74号住居跡、第4号掘立柱建物跡、第116・117号土壌と重複関係にある。すべての遺構より古い。住居跡の北側は、重複する住居跡と土壌に壊されている。



第90図 第79・80号住居跡・出土遺物

第69表 第79・80号住居跡出土遺物観察表

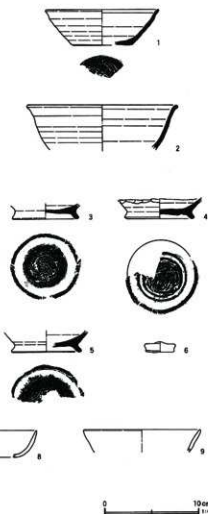
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 坏	12.0	3.5	5.8	EPHU	良好	灰	80	SJ79No.1カマド
2	土師器 坏	12.6	3.2	9.0	ABDEH	普通	にぶい橙	80	SJ79No.5, SJ80
3	土師器 坏	12.3	3.3	9.2	ABHJ	普通	にぶい橙	80	SJ79No.3, SJ80
4	土師器 坏	12.5	3.5	10.7	ABDEI	普通	にぶい黄橙	70	SJ79No.4, SJ80
5	土師器 坏	(11.6)	3.3	(8.0)	EH	普通	にぶい橙	40	SJ80



第83号住居跡

1 褐色土 ①—A地・黄土状・白色粘土多量

水深標高=53.5m 0 2m



第91図 第83号住居跡・出土遺物

第70表 第83号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 坏	(12.0)	3.7	(6.4)	EJH	良好	黄灰	15	
2	須恵器 碗	(16.0)	(4.7)	—	EJH	普通	灰	30	
3	須恵器 高台付碗	—	(1.6)	7.1	EJH	良好	灰	100	
4	須恵器 高台付碗	—	(2.1)	7.4	EJH	良好	灰	70	体部は打ち欠いたような痕跡
5	須恵器 高台付碗	—	(2.3)	(7.4)	AEH	不良	にぶい黄橙	30	
6	須恵器 蓋	—	(1.1)	—	AEH	不良	にぶい橙	100	酸化焙焼成 つまみ径3.2cm
7	須恵器 葉	—	—	—	EJH	良好	黄灰	破片	
8	土師器 坏	(12.0)	2.8	(8.6)	ADEH	不良	にぶい橙	10	磨耗著しい
9	土師器 坏	(12.4)	(2.4)	—	ABEH	普通	橙	20	

平面形は不明であるが、方形であろうか。規模は南辺が3.60mで、西辺は2.3m残存していた。深さは0.03mと極めて浅い。主軸方向は、N-82°-Eを指す。

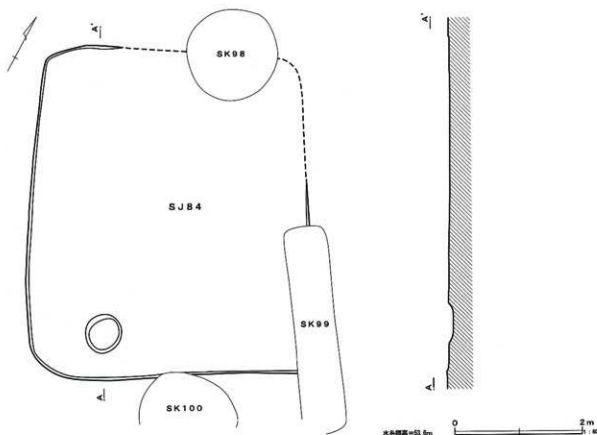
床面は平坦であるが、覆土の状況は不明である。壁溝やピットは検出されなかった。

カマドや炉も検出されなかった。

遺物は高坏の破片が出土した。時期は5世紀としておく。

第79号住居跡 (第90図)

調査区の中央、Y-50グリッドに位置する。第80



第92図 第84号住居跡

・128号住居跡と重複関係にあり、第128号住居跡より新しい。検出された段階で床面まで削られていた。カマドが2基確認されたことから2軒の重複と考えて調査したが、2基のカマドはその形態から同時に存在した可能性がある。床面には内側に貼床された範囲が見られる。住居跡が拡張されたものと考えられると、拡張前の部分を埋めて貼床したことは十分考えられる。ここでは拡張住居と捉えカマドは2連あったものと考えておきたい。

平面形は長方形である。規模は長軸5.04m、短軸4.10mである。主軸方向はN-83°-Eを指す。

床面の状況はよくわからない。壁溝は全周する。

カマドは東壁に造られていた。燃烧部は壁を掘り込んで突出している。底面は先端に向かって緩やかに高くなるが、右側のカマドの底面は傾斜がややきつい。火床面は左右とも床面より下がっている。左側のカマドは奥行きがあり140cmである。右側は130cmである。袖は3本確認した。

カマドの反対側の壁際に貯蔵穴と思われる掘り込みを検出した。1.3m×1mの隅丸長方形で、深さは34cmであった。

床下土壌は3基確認された径60cm~100cmであるが拡張前の第80号住居跡のものとの区別はできなかった。

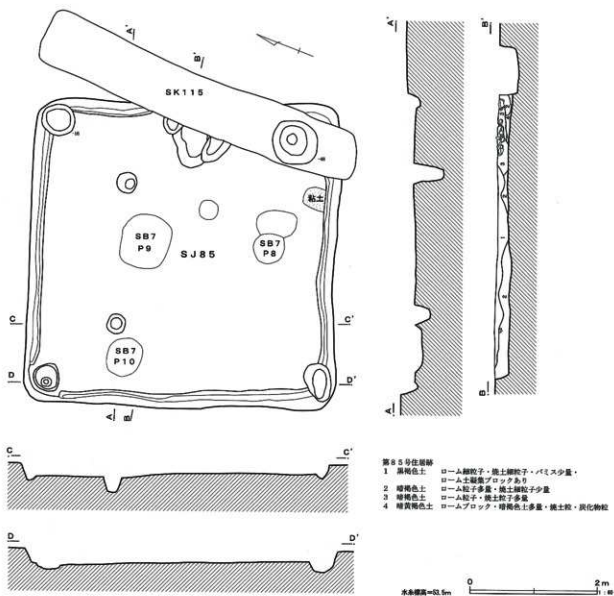
遺物は、土師器の坏、須恵器の坏が出土している。時期は9世紀前半である。

第80号住居跡（第90図）

調査区の中央、Y-50グリッドに位置する。第79・128号住居跡と重複関係にある。第128号住居跡より新しい。第79号住居跡については前述したように本住居跡を拡張したものと解釈した。

平面形は長方形である。規模は長軸3.62m、短軸3.48mである。主軸方向は東カマドと想定した場合、N-87°-E位となる。

床面の状況はよくわからない。ピットは複数検出



第93図 第85号住居跡

されたが確実に本住居跡に伴うものは断定できなかった。

カマドは東壁に設置されていたものと思われる。

遺物は、第79号住居跡と一括であるが、本住居跡に伴うものはないと思われる。

時期は第79号住居跡が本住居跡を拡張したものと解釈から9世紀前半以前となる。

第81号住居跡 (第86図)

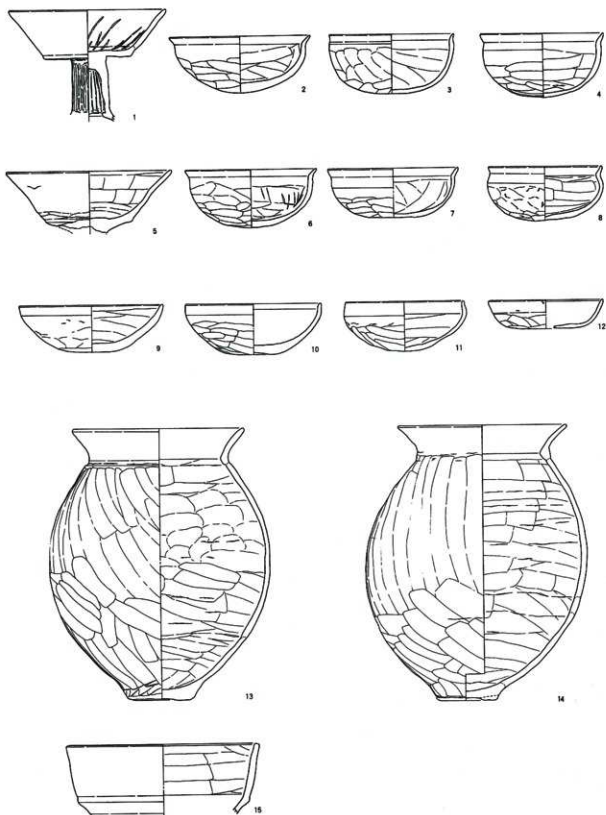
調査区の中央、Y-50グリッドに位置する。第75

・105・107号住居跡と重複関係にある。第75号住居跡より古く、他の住居跡より新しい。

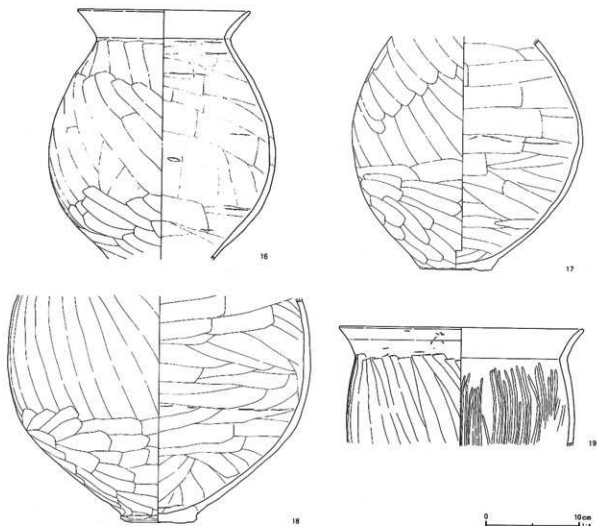
平面形は長方形である。規模は長軸4.48m、短軸3.10mである。主軸方向は、 $N-76^{\circ}-E$ を指す。

ほとんど床面まで削平されていたため、床面の状況は不明である。壁溝は、西角が第75号住居跡によって壊されているが、全周していたと見られる。

カマドは東壁のやや南寄りに造られていた。燃焼部は壁内にほぼ収まると考えられるが、先端が煙道状に壁からやや突出している。掘り方を埋めて火床



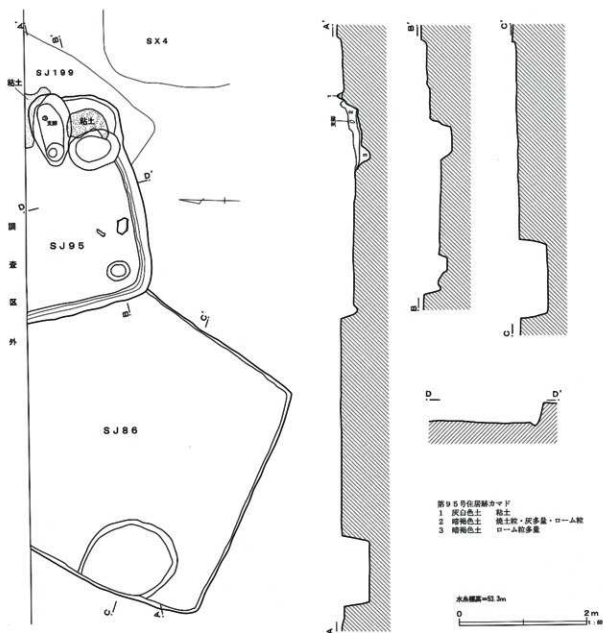
第94图 第85号住居跡出土遺物(1)



第95図 第85号住居跡出土遺物(2)

第71表 第85号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 高坏	16.5	(11.7)	-	ADEHU	不良	明赤褐	90	No. 19 やや歪む 磨耗著しい
2	土師器 碗	14.8	6.0	-	ABDHI	普通	明赤褐	90	No. 16・18
3	土師器 碗	13.0	6.3	-	ABHJ	普通	にぶい赤褐	60	No. 22
4	土師器 碗	13.0	6.8	-	ABEH	普通	明褐	95	No. 14
5	土師器 高坏	17.5	(6.5)	-	BEHJ	普通	にぶい赤褐	90	No. 3 歪み大きい
6	土師器 碗	13.9	6.1	-	ABEH	普通	明赤褐	100	No. 5 外面赤彩?
7	土師器 碗	(13.4)	5.2	6.8	ABDEHU	普通	明赤褐	40	
8	土師器 碗	12.0	5.7	-	ABDEHJ	普通	明赤褐	100	No. 12
9	土師器 碗	15.2	4.9	-	ABH	普通	にぶい赤褐	90	No. 13
10	土師器 坏	(14.2)	5.3	3.3	AHJ	普通	にぶい赤褐	40	No. 21
11	土師器 坏	12.5	5.2	-	ABDEHU	不良	明赤褐	95	No. 17 口縁は楕円形
12	土師器 坏	(12.0)	3.0	-	ADEHU	普通	橙	30	No. 1
13	土師器 甕	(18.0)	28.4	7.0	ABDEHU	普通	にぶい橙	45	No. 18
14	土師器 甕	17.6	28.8	6.5	ABDEHU	普通	にぶい褐	90	No. 15
15	土師器 壺	(20.4)	(7.4)	-	ADH	普通	にぶい橙	25	No. 13
16	土師器 甕	18.4	(26.3)	-	AEH	普通	にぶい橙	70	No. 7
17	土師器 甕	-	(24.5)	7.6	ABDEHJ	普通	にぶい黄橙	70	No. 8
18	土師器 甕	-	(23.8)	8.0	ABDEHU	普通	明褐	60	No. 9・18
19	土師器 甕	(26.0)	(12.4)	-	EH	普通	にぶい赤褐	15	No. 6



第96図 第86・95号住居跡

面は床面よりやや下がっている。火床面の上には天井から崩落した粘土が見られた。袖は両袖とも確認された。白色粘土で造られていた。両袖とも短く30cmほどである。

カマド右側やや前に貯蔵穴様の掘り込みが確認された。径60cm、深さ10cmである。

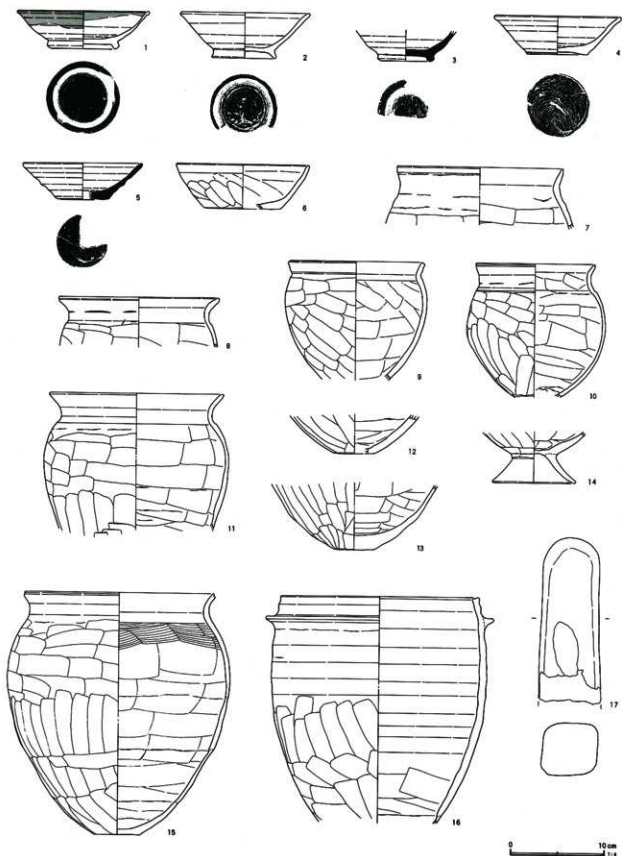
遺物は須恵器の坏・蓋が出土している。時期は、9世紀前半～中葉である。

第82号住居跡（第78図）

調査区の中央、Y-51グリッドに位置する。第69・88号住居跡と重複関係にあり、本住居跡が最も新しい。

平面形は、南角がかなり丸みを持つが長方形である。規模は長軸3.50m、短軸2.30m、深さ0.20mである。主軸方向は、N-82°-Eを指す。

床面は平坦である。覆土は自然堆積と考えられる。



第97图 第95号住居跡出土遺物

第72表 第95号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	灰釉 碗	(14.0)	(4.0)	7.6	E	良好	灰白	70	No.30 つげかけ 糸切り 東濃 大原
2	ロクロ 高台付碗	13.7	4.8	6.7	AEHU	不良	にぶい黄橙	90	No.25
3	須恵器 高台付碗	-	(3.2)	(6.0)	EHU	普通	灰	40	
4	ロクロ 坏	(13.4)	4.1	6.5	ADEH	普通	にぶい黄橙	60	No.29
5	須恵器 坏	(12.6)	3.9	5.5	EHU	普通	灰	40	カマド
6	土師器 坏	(14.0)	4.6	(8.0)	BEGHU	普通	にぶい赤褐	25	
7	土師器 甕	(17.6)	(6.3)	-	BEH	普通	にぶい褐	30	No.8・9
8	土師器 甕	(17.0)	(5.2)	-	ABEHU	普通	にぶい赤褐	10	No.20
9	土師器 甕	(14.0)	(12.4)	-	ADEH	普通	灰褐	15	No.1, 貯穴
10	土師器 台付甕	12.6	(14.1)	-	ABDEH	普通	にぶい褐	95	カマド
11	土師器 甕	18.2	(14.3)	-	BEH	普通	にぶい褐	60	No.28
12	土師器 甕	-	(4.0)	(4.5)	AEHU	普通	にぶい褐	20	
13	土師器 甕	-	(6.8)	4.2	BEHU	普通	にぶい褐	40	No.16・17, 貯穴, カマド
14	土師器 台付甕	-	(5.4)	(8.8)	BDEHU	普通	にぶい赤褐	60	No.12・13・14, カマド
15	土師器 甕	(20.0)	25.4	5.0	ADEH	普通	にぶい黄橙	40	No.3・6・21
16	ロクロ 羽釜	(21.0)	(23.8)	-	ABEHU	良好	灰黄褐	60	No.4・11・23・24, カマド
17	支脚	残存長 (17.5) cm	幅6.5cm	厚さ5.0cm			灰黄褐	80	カマド支脚石 重さ1167.7g

壁溝は南壁とカマド部分以外は廻っていた。ピットは南と北寄りに2基検出された。ほとんど当りだけといった状態で浅いものであるが、柱穴と考えておきたい。

カマドは東壁の南寄りに造られていた。燃焼部は壁を掘り込んでおり、その先に煙道が延びている。燃焼部規模は奥行き60cm、幅50cmで煙道の長さは65cmである。火床面は床面よりやや高く造られていた。カマド周辺には、補強材に使われていたと思われる片岩の破片が散乱していた。袖は検出されなかった。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器坏・蓋・高台付碗、灰釉皿、鉄製品では釘が出土している。また、埴輪の破片が出土している。9は形象埴輪の一部である。周辺の古墳のものを転用していたことが考えられる。

時期は、9世紀である。

第83号住居跡 (第91図)

調査区の中央、Y-51、Z-51グリッドに位置する。第5号掘立柱建物跡、第5号井戸跡と重複関係にあり、本住居跡のほうが古い。住居跡の大半は第5号井戸によって壊されている。

平面形は変則的な長方形である。南の角が隅切状に欠けている。規模は長軸4.32m、短軸2.98m、深さ0.05mである。主軸方向は、N-63°-Eを指す。

床面は平坦である。壁溝や柱穴は検出されなかった。覆土は褐色土単層で浅いため、詳しい状況はわからなかった。

カマドは検出されなかった。

遺物は土師器の坏、須恵器高台付碗、蓋のつまみなどが出土した。

時期は9世紀前半と考えられる。

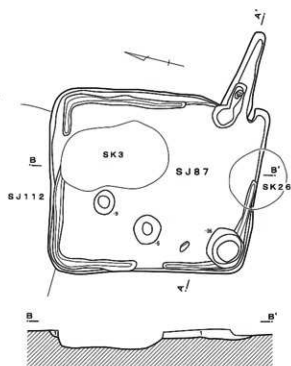
第84号住居跡 (第92図)

調査区の中央、Y-52、Z-53グリッドに位置する。第98・99・100号土壌と重複関係にあり、本住居跡が最も古い。遺存状況が悪くほとんど削平されている。掘り方の底面を追って平面を確定した。

平面形は長方形と推定される。規模は長軸5.30m、短軸4.46mである。主軸方向はN-26°-Wを指す。床面の状況ははっきりしない。壁溝はないようである。ピットは住居跡の南側に1基検出されたが伴うものかどうか不明である。

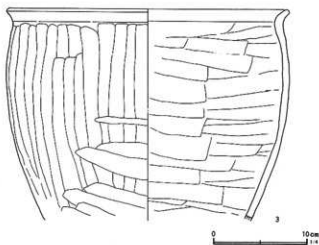
カマドや炉は検出されなかった。

遺物は、図示できるものはないが土師器の小破片がわずかに出土した。時期は破片遺物や住居跡の形態から5世紀頃ではないかと推測される。



- 第87号住居跡
- 1 暗褐色土 ローム粒少量・焼土粒
 - 2 灰色土 焼土
 - 3 暗褐色土 焼土粒少量
 - 4 暗褐色土 焼土粒多量・ローム粒少量
 - 5 暗褐色土 ロームブロック多量

水深調査=33.4m 0 2m



第98図 第87号住居跡・出土遺物

第73表 第87号住居跡出土遺物観察表

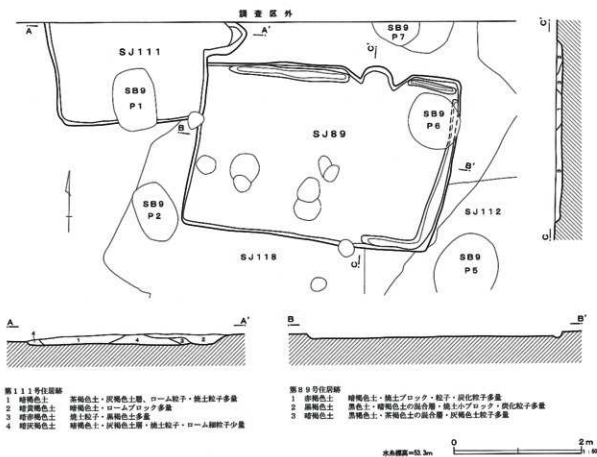
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 坏	—	(2.5)	(6.0)	HJ	良好	灰	20	カマド
2	須恵器 高台付碗	—	(2.7)	(6.3)	AEHJ	普通	黄灰	80	SK 1
3	土師器 甕	(30.0)	(22.2)	—	DHJ	普通	にぶい橙	15	カマドNo.1・2・3・9 歪み大きい

第85号住居跡 (第93図)

調査区の中央、Z-52・53グリッドに位置する。第7号掘立柱建物跡、第115号土壌と重複関係にあり、本住居跡の方が古い。すぐ北側に同じ頃の時期と推定した第84号住居跡がある。

平面形は方形である。規模は長軸4.84m、短軸4.80m、深さ0.18mである。主軸方向は、N-72°-Eを指す。

床面は平坦で壁溝は全周する。覆土は自然堆積である。住居跡の角には径80cm前後の土塊状の掘り込



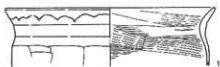
第111号住居跡

- 1 緑褐色土 赤褐色土・灰褐色土層、ローム粒子・焼土粒子多量
- 2 緑灰褐色土 緑褐色土・ロームブロック多量
- 3 緑赤褐色土 焼土粒子・黒褐色土多量
- 4 緑灰褐色土 緑褐色土・灰褐色土層、焼土粒子・ローム細粒子少量

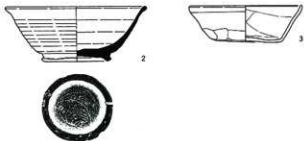
第89号住居跡

- 1 赤褐色土 緑褐色土・焼土ブロック・粒子・炭化粒子多量
- 2 黒褐色土 黒褐色土の炭化層、焼土小ブロック、炭化粒子多量
- 3 緑褐色土 黒褐色土・赤褐色土の炭化層、灰褐色土粒子多量

SJ 89



SJ 111



SJ 118



第99図 第89・111号住居跡・出土遺物

第74表 第89号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 甕	(22.2)	(6.1)	-	EHI	普通	灰褐色	10	

第75表 第111号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
2	須恵器 高台付碗	(15.0)	5.8	7.2	EHI	良好	灰	60	カマド No.1
3	土師器 坏	12.0	3.9	9.3	BDEH	普通	明赤褐	80	カマド No.2

第76表 第118号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
4	須恵器 坏	(12.0)	3.2	(6.0)	EJ	良好	灰	15	
5	須恵器 碗	(14.0)	(4.0)	—	EHI	普通	灰	15	
6	土師器 坏	(12.4)	3.8	(7.4)	ADEH	普通	橙	15	
7	土師器 坏	(11.0)	2.7	(8.2)	ADEH	普通	橙	15	

みが検出された。東角は第115号土壌によって壊されているのでよくわからないが、土壌の下から本住居跡の貯蔵穴が確認されているので、ここにはなかったかもしれない。この住居跡の角にある掘り込みが何を意味するのかは不明である。柱穴は西側の2本が検出されたが残りは検出できなかった。

カマドは東壁の中央に造られていたが第115号土壌によって半分以上を壊されている。燃烧部などの詳しい状況はわからないが、火床面は床面より高かった可能性がある。袖は両側とも先端部が遺存していた。

貯蔵穴はカマドの右側にあり、第115号土壌の下に確認された。

遺物は、カマドの前面、貯蔵穴の周囲にまもって出土したが、土壌によってかなり失われたと思われる。土師器の坏・高坏・甕が出土している。12は混入である。

時期は5世紀である。

第86号住居跡 (第96図)

調査区の中央、Y-52・53、X-52・53グリッドに位置する。第95号住居跡と重複関係にあり本住居跡の方が古い。遺構の北側は調査区域外にかかる。

平面形は長方形と推定される。規模は、長軸は4.4mまで確認できた。短軸4.32m、深さ0.06mである。主軸方向は、南北方向でN-30°-Eとなる。

床面は平坦である。壁溝やピットは検出されなかった。覆土の状況は確認できなかった。

カマドや炉は検出されなかった。

西壁際に土壌状の掘り込みが検出された。大きさは160cm×130cmで、深さは65cmである。貯蔵穴の可能性もある。

遺物は出土しなかった。時期は不明であるが遺構の形態から5世紀頃のものであると推測される。

第87号住居跡 (第98図)

調査区の中央、Y-52グリッドに位置する。第112号住居跡、第3・26号土壌と重複関係にある。第112号住居跡、第3号土壌より古く、第26号土壌より新しい。

平面形は、西辺が東辺より短いため、少し歪んだ長方形を呈する。規模は長軸3.46m、短軸2.86m、深さ0.07mである。主軸方向はN-97°-Eを指す。

床面は平坦で、壁溝は所々切れておりカマド周辺には検出されなかった。ピットは2基検出された。

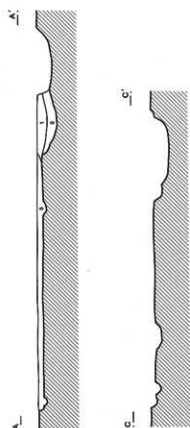
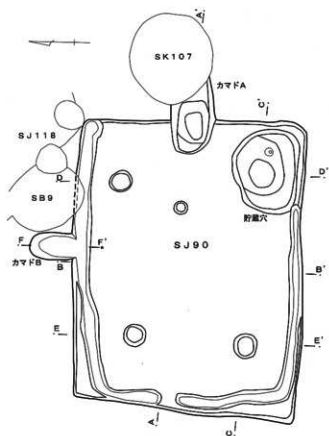
カマドは東壁の南寄りに造られていた。燃烧部は床面と同じ高さで掘り込まれる。煙道は壁に対してやや斜めに長く突出している。火床面は床面と同じ高さである。袖は右袖がわずかに確認された。

貯蔵穴は、南西隅に検出された掘り込みが該当すると思われる。大きさは65cm×55cmで深さは36cmである。

遺物は、土師器の甕、須恵器の坏が出土している。時期は、甕の年代を取ると10世紀後半と考えられる。

第88号住居跡 (第78図)

調査区の中央、Y-51グリッドに位置する。第69



- 第90号住居跡
- 1 暗褐色土 焼土ブロック・灰色粘土少量
 - 2 暗褐色土 焼土ブロック・ローム粒・ブロック
 - 3 暗褐色土 土上粘土む
 - 4 暗褐色土 ローム粒・粘土粒
 - 5 暗褐色土 ロームブロック・焼土粒少量

北東傾斜-52.4m

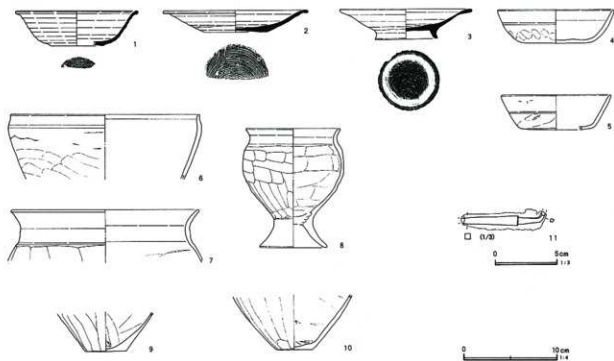


第100図 第90号住居跡

・82・104号住居跡と重複関係にある。第82・104号住居跡より古い。第69号住居跡との新旧関係はつかめなかった。

平面形は方形と推定される。規模は南北方向が約3m、東西方向は3.20mである。深さは0.05mである。主軸方向はN-25°-Eとなる。

遺構は、第82号住居跡が真ん中に入り込んでいるためあまり残っていない。床面や覆土の状況もあまりよくない。西隅の壁際に焼土が検出されたが何らかの施設に伴うものではないようである。下からは貯蔵穴様の掘り込みが検出されたが、遺物などは出土しなかった。



第101図 第90号住居跡出土遺物

第77表 第90号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	須恵器 坏	(13.0)	3.7	(5.8)	EJH	良好	灰	10	やや歪みあり
2	須恵器 皿	(15.6)	(2.3)	(6.6)	EJH	普通	灰	60	やや歪みあり
3	須恵器 高台付皿	14.0	3.2	6.5	HJ	普通	灰	100	貯穴 No.1
4	土師器 坏	(12.4)	3.6	7.6	ABEH	普通	にぶい橙	50	
5	土師器 坏	(11.6)	3.7	(7.6)	ABEH	不良	橙	20	
6	土師器 鉢	(20.0)	(6.8)	—	ABDEH	普通	褐	15	貯穴
7	土師器 甕	(20.0)	(5.7)	—	ABDEH	普通	にぶい赤褐	10	
8	土師器 台付甕	(10.0)	12.6	(7.2)	BDEH	普通	にぶい赤褐	40	
9	土師器 甕	—	(4.1)	4.3	ABDH	普通	橙	40	
10	土師器 甕	—	(5.8)	3.9	ABEH	普通	明赤褐	60	周溝
11	鉄製品	残存長6.7cm 断面一辺0.5cm四方+0.25cm四方				重さ14.0g	破片	錠前?	

カマド、炉、ピットなどは検出できなかった。

遺物は出土しなかった。

時期は不明である。

—Eとなる。

床面は平坦で、壁溝は北壁と東壁および南壁の東側だけ検出された。ピットは本遺構に伴うものはない。

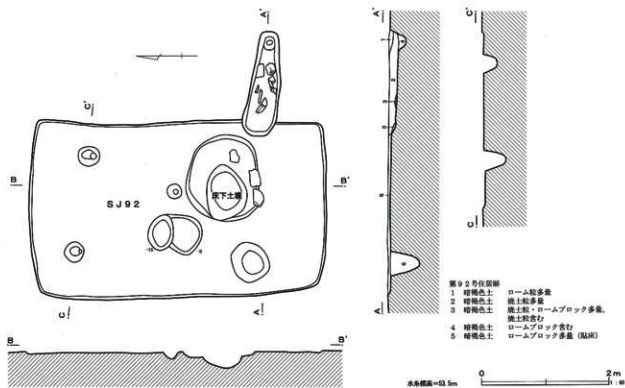
第89号住居跡 (第99図)

調査区の中央、X-52・Y-52グリッドに位置する。第111・118号住居跡、第9号掘立柱建物跡と重複関係にある。第118号住居跡よりは新しいが、他の遺構との新旧関係はよくわからなかった。

平面形は長方形である。規模は長軸4.08m、短軸2.76m、深さ0.10mである。主軸方向は、N-9°

カマドは北壁に造られていた。燃焼部はほぼ壁内に収まっている。全体に簡単なつくりで掘り方もない。火床面は床と同じ高さであるが、むしろ床の延長上に火床面があったような具合である。袖は両側とも短く小さい。白色粘土を使っていた。

遺物は、土師器の甕が出土している。また、第118号住居跡からも坏が出土しているが、この住居跡は



第102図 第92号住居跡

縄文時代の住居跡であるため、本住居跡の遺物であらう。時期は10世紀と考えるべき。

第90号住居跡 (第100図)

調査区の中央、Y-51・52グリッドに位置する。第9号掘立柱建物跡、第107号土壌と重複関係にあり、第107号土壌より古い。第9号掘立柱建物跡との新旧関係はわからなかった。

平面形は長方形であるが北辺が南辺より若干短い。規模は長軸4.50m、短軸3.70m、深さ0.08mである。主軸方向は、N-82°-Eとなる。

床面は平坦である。壁溝はカマドのある東壁には検出されなかった。カマドの反対の西壁中央部も切れていた。ピットは4基検出されたがいずれも浅い。位置的には西側の2基は柱穴と考えられるが、その他については断定できない。

カマドは北壁と東壁に検出された。北壁のカマド(カマドB)は、埋め戻されており壁際を壁溝がとおることから古いカマドで、後に東壁のカマド(カ

マドA)に造り替えられたと考えられる。カマドBは北壁の中央に造られ、壁を掘り込んで燃焼部としていたようである。80cmほど壁外に張り出している。カマドAは東壁の中央に造られていた。先端部分は第107号土壌によって壊されている。燃焼部は土塊状に壁を外側に掘り込んでいる。掘り方を埋めて、火床面は床面よりやや低く設定されている。袖は検出されなかった。

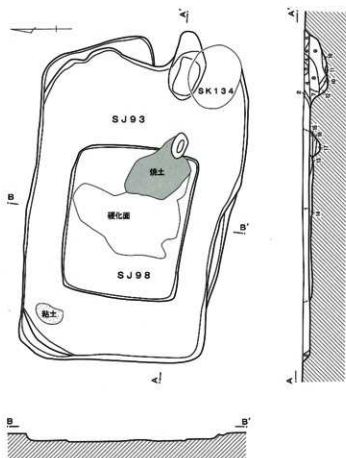
貯蔵穴は、カマド右側に掘り込まれていた。住居の南東隅に位置し、中心が深く周囲はやや浅く掘り込まれていた。中から高台付皿が出土した。

遺物は、土師器の坏・甕・台付甕・鉢、須恵器の坏・皿などが出土した。

時期は9世紀後半と考えるべき。

第91号住居跡 (第83図)

調査区の中央部、Y-49、Z-49グリッドに位置する。第71・72号住居跡、第3号掘立柱建物跡と重複関係にあり、第72号住居跡、第3号掘立柱建物跡



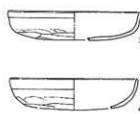
- 第93号住居層
- 1 赤褐色土 焼土粒・ローム粒少量
 - 2 暗黄褐色土 焼土粒少量
 - 3 暗褐色土 焼土粒少量
 - 4 黄褐色土 焼土粒・焼土ブロック
 - 5 暗褐色土 ローム粒多量・焼土粒少量
 - 6 赤褐色土 ローム粒多量・焼土粒少量
 - 7 赤褐色土 焼土粒少量
 - 8 暗黄褐色土 焼土粒・ローム粒多量・炭化物
 - 9 暗黄褐色土 焼土粒・炭化物粒多量
 - 10 暗褐色土 焼土粒・ローム粒
 - 11 暗褐色土 焼土粒・ローム粒少量
 - 12 赤褐色土 焼土粒多量
- 第98号住居層
- 13 暗黄褐色土 焼土ブロック
 - 14 赤褐色土 ローム粒多量
 - 15 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量
 - 16 赤褐色土 土粒少量
 - 17 暗褐色土 ローム粒
 - 18 暗黄褐色土 焼土粒

水深標高=53.2m 0 2m

SJ 93



SJ 98



0 10cm

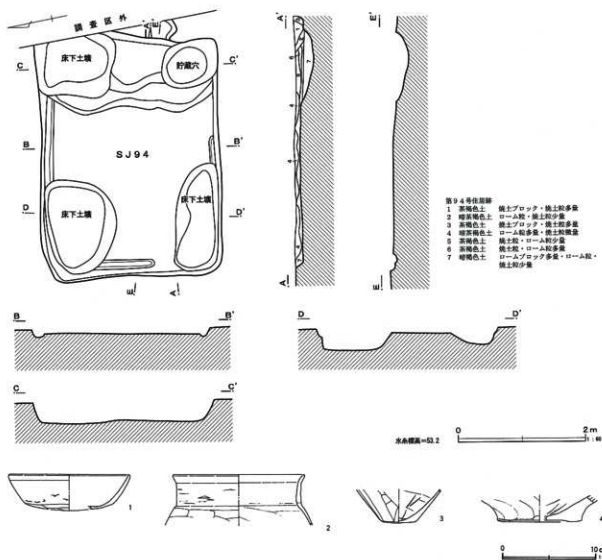
第103図 第93・98号住居跡・出土遺物

第78表 第93号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	(20.0)	(3.2)	-	ABEH	普通	にぶい黄褐	15	

第79表 第98号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
2	須恵器 坏	-	(3.5)	(7.4)	ABEHJ	普通	にぶい橙	40	酸化焙焼成
3	土師器 坏	(14.0)	3.0	-	BDEH	普通	にぶい褐	20	
4	土師器 坏	(13.4)	(3.1)	-	BH	普通	にぶい黄褐	15	



第104図 第94号住居跡・出土遺物

第80表 第94号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率(%)	備考・出土位置
1	土師器 坏	12.8	(3.7)	(9.2)	ABDEH	普通	褐	60	磨耗著しい
2	土師器 甕	(14.0)	(5.3)	-	BDEH	普通	褐灰	15	
3	土師器 甕	-	(3.6)	(3.6)	BEH	普通	灰黄	10	
4	土師器 甕	-	(2.8)	(9.0)	HJ	普通	にぶい褐	20	内面剥落部分多い

より古い。第71号住居跡との関係は明瞭でないが、本住居跡が古いのではないと思われる。

平面形は不明である。規模は、検出された東辺で4.44m、南辺は2.72mまでであった。深さ0.05mでごく浅い。主軸方向は、東辺でN-9°-Wとなる。

床面の状況は、ほとんど残っていないので不明である。壁溝は検出されなかった。覆土の状況も不明である。北東隅に円形の土壇状の掘り込みが検出さ

れた。貯蔵穴のようでもあるが何も出土しなかった。

遺物は出土しなかった。

時期は不明である。

第92号住居跡 (第102図)

調査区の中央、Z-52グリッドに位置する。他の遺構との重複はない。

平面形は長方形である。規模は長軸4.76m、短軸